

2 0 2 4 年度

(2 0 2 4 年 4 月 1 日から 2 0 2 5 年 3 月 3 1 日まで)

事 業 報 告

一般財団法人 大阪科学技術センター

目 次

2024 年度事業概況	1
-------------	---

【事業活動】

I 普及広報事業	2
II 技術振興事業	18
1. 技術開発委員会事業	
2. エネルギー技術対策委員会事業	
3. 中堅・中小企業技術振興委員会事業	
4. 地球環境技術推進懇談会事業	
5. 大阪科学賞	
6. 学協会の地域活動支援事業	
III ニューマテリアルセンター事業	29
1. 標準化事業	
2. 研究開発事業	
3. 材料技術振興基盤の整備事業	
4. 学協会の地域活動支援事業	
IV 地域開発促進事業	32
V ビル利用促進事業	33
VI 総合企画活動	37
1. 科学技術振興の基盤づくり	
2. 賛助会員対応活動	
3. 経営企画	

【総務事項】

I 総務事項	40
1. 会員の状況	
2. 役員等に関する事項	
3. 職員に関する事項	
4. 役員会等に関する事項	

2024 年度事業概況

大阪科学技術センターは、科学技術の振興と産業の発展に向け各種事業に取り組んでいる。当財団をめぐる経営環境は厳しい状態が続いているが、新たな取組みの推進による収益向上並びに効率的な業務遂行による経営基盤の強化に取り組んでおり、その成果が徐々に表れてきている。2024年度大阪科学技術館来館者数は28万人を超える多くの方々にご来館いただいた。また、研究会活動においても、多様な業界から多くの方々に参加いただくなど、創意工夫により多くの事業を推進した。

事業活動の概要

各事業の推進にあたっては、事業分野ごとに設置した委員会等に産学官の各界の専門家を委員として迎え、意見を踏まえながら事業を計画立案し、実施した。

普及広報事業では、わが国の科学技術水準の向上に寄与すべく、次世代を担う青少年ならびに一般市民を対象に科学技術への理解を増進するため、「大阪科学技術館の展示・運営」と「出前授業等による科学広報活動」を両輪として活動し、事業を効果的に展開した。大阪科学技術館の展示・運営では、時代の変化や社会のニーズに合わせた特別展やイベント等を開催するとともに、来る大阪・関西万博も見据え、館の社会的価値ならびに認知度の向上を図ることで、新たな分野の開拓を行った。また、科学広報活動では、企業・大学、教育機関等との連携を深め、事業内容の充実化や活動対象の拡大を行った。

技術振興及び地域開発促進の事業では、経済活性化に繋がるような事業の拡充、新たなイノベーションシステムの創出、さらに次世代の科学技術振興の原点となる人材育成支援など、科学技術の振興と関西の地域開発の促進に資する事業を積極的に展開した。技術振興事業に関して、特にカーボンニュートラルに関連する分野について、実証サイト視察、研究会を通じた知見の蓄積や技術開発支援など、多様な視点から多岐にわたる活動を活発に進めた。また、中堅・中小企業における技術振興と事業化支援においては、経済産業省の補助事業である成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）について、国内で最多となる計22件のプロジェクトの事業管理を推進した。さらに、人材養成事業については、ものづくりにおけるAIなどのデジタル技術を実務レベルで活用するための研修を重点的に展開した。地域開発促進事業に関しては、2019年から6年間にわたり議論を深めてきた調査研究について、提言書『ポスト万博の都市空間戦略～2040年に向けた大阪・関西のまちづくり～』として取りまとめて大阪市に手交した。

ニューマテリアルセンター事業では、国家施策に沿った事業として金属系新素材の評価試験方法の確立および標準化の促進とそれに関連する研究開発を推進した。

ビル事業では、顧客ニーズに寄り添った最新の映像・音響機器の整備を実施した。また、新規利用先の開拓としてDM発送や案内メールの配信等の広報活動を継続的に実施した。しかし、従前の集合式会議からオンライン式会議への定着化の影響もあり、収益増進には繋がらなかった。そのため、料金改定を検討した。ビル改修工事においては、計画通り、着実に工事を実施した。

総合企画活動では、最新技術情報など科学技術分野に関する発信情報の内容充実化、財団の公益的活動に関する理解促進に努めるとともに、当財団へのご意見等を各種事業活動に反映させ、魅力あるイベントを企画・開催するなど、賛助会員の満足度向上に努めた。また、関係諸団体との連携においては、各団体の知見を当財団の取組みに反映すべく、定期的な情報交換を実施した。

各事業の詳しい事業報告を次項以降に記す。

I 普及広報事業

わが国の科学技術水準の向上に寄与すべく普及広報事業では、次世代を担う青少年ならびに一般市民を対象に科学技術への理解を増進するため、「大阪科学技術館の展示・運営」と「出前授業等による科学広報活動」を両輪として活動した。

大阪科学技術館の展示・運営では、出展者の協力による科学技術・産業技術の展示に加え、実験や工作等のイベントを定期的に行うことで、次世代を担う青少年に科学技術や産業技術を体感する機会を設けた。

また、科学広報活動では、学校、子供会、教職員等幅広い層を対象に、科学技術への関心を高めるべく出前授業・講座等を展開した。

2024年度は以下の項目について重点的に取り組んだ。

①大阪科学技術館については、時代の変化や社会のニーズに合わせた特別展やイベント等を開催するとともに、来る大阪・関西万博も見据え、館の社会的価値ならびに認知度の向上を図ることで、新たな分野の開拓に努めた。

②科学広報活動については、企業・大学、教育機関等との連携を深め、事業内容の充実化や活動対象の拡大に努めた。

<委員会活動>

1. 普及広報委員会（産業界 30 名、団体 9 名：委員会 2 回、見学会 1 回）

・第 93 回普及広報委員会

日 時：2024 年 10 月 23 日（水） 15:30～17:10

場 所：大阪科学技術センター 8 階 中ホール、オンライン

議 案：2024 年度上期普及広報事業報告について

2025 年度大阪科学技術館展示事業協力金について

2025 年度（第 35 回）大阪科学技術館 展示改装について

その他

・第 94 回普及広報委員会

日 時：2025 年 3 月 13 日（木） 15:00～16:45

場 所：大阪科学技術センター 8 階 中ホール、オンライン

議 案：2024 年度普及広報事業報告について

2025 年度普及広報事業計画について

2025 年度（第 35 回）大阪科学技術館 展示改装について

その他

・見学会

日 程：2024 年 9 月 5 日（木）～9 月 6 日（金）

見学場所：洋上風力発電「はえんかぜ」、五島市におけるゼロカーボンシティ等の取組についての意見交流

参加者数：8 名

- ・特別視察

日 程：2024 年 12 月 3(火)

見学場所：NHK大阪放送局

参加者数：13 名

(1) 展示部会（産業界19名、団体7名：部会2回）

- ・第124回展示部会

日 時：2024年10月9日(水) 15：00～16：50

場 所：大阪科学技術センター 8階 中ホール、オンライン

議 案：2024年度上期展示事業報告について

2025年度展示事業協力金改訂について

2025年度(第35回)大阪科学技術館展示改装について

その他

- ・第 125 回展示部会

日 時：2025 年 3 月 4 日(火) 15：00～16：45

場 所：大阪科学技術センター 8 階 小ホール、オンライン

議 案：2024 年度展示事業報告について

2025 年度展示事業計画について

2025 年度(第 35 回)大阪科学技術館展示改装について

その他

- ・見学会

日 程：2024 年 11 月 5 日(火)～6 日(水)

場 所：科学技術館、日本科学未来館、AkeruE(Panasonic Creative Museum)

参加者数：7 名(11 月 5 日(火))、9 名(11 月 6 日(水))

(2) 広報部会（産業界8名、団体1名：部会2回、見学会1回）

- ・第97回広報部会

日 時：2024年10月3日(月) 16：00～17：00

場 所：大阪科学技術センター 6階 601号室・オンライン

議 案：2024年度上期広報事業報告について

その他

- ・第98回広報部会

日 時：2025年3月3日(月) 16：15～17：00

場 所：関西電力(株) 地域共生本部 会議室

議 案：2024度広報事業報告について

2025年度広報事業計画について

その他

- ・見学会

日 時：2025年3月3日(月) 11:30～15:00

場 所：福井県立恐竜博物館

参加者数：5名

(3) エネルギー広報対策特別部会（産業界6名、団体2名：部会2回、見学会1回）

・第89回エネルギー広報対策特別部会

日 時：2024年10月4日（金） 16:00～17:00

場 所：大阪科学技術センター 6階 601号室

議 案：2024年度上期エネルギー広報事業報告について

その他

・第90回エネルギー広報対策特別部会

日 時：2025年3月6日（木） 14:30～15:30

場 所：大阪科学技術センター 7階 703号室

議 案：2024年度エネルギー広報事業報告について

2025年度エネルギー広報事業計画について

その他

・見学会

月 日：2024年6月4日（火）～6月5日（水）

場 所：日本原子力研究開発機構 幌延深地層研究センター、ユーラス宗谷岬ウィンドファーム

参加者数：5名

<活動内容>

1. 大阪科学技術館の企画・運営

統一テーマ「好奇心をカタチに！科学技術で創造する未来」のもと、科学技術の次代を担う青少年をはじめ一般市民を対象に、出展機関の取り組む先端技術ならびに科学技術、産業技術の果たす役割について展示公開を行った。

また、出展機関ならびに協力機関等との連携による活動基盤の強化のもと、科学技術トピックス等の特別展・イベント開催、また報道機関等への情報発信を行い、当館の社会的価値および認知度の向上を図るとともに、新規出展者の誘致ならびに来館者増に繋げた。

(1) 展示活動

①大阪科学技術館 統一テーマ

「好奇心をカタチに！科学技術で創造する未来」

②大阪科学技術館愛称

「てくてくテクノ館」

③開館時間、休館日

開館時間 平日・土曜 10:00～17:00、日曜・祝日 10:00～16:30

休 館 日 ・定期休館（第1・3水曜日）

4月17日（水）、5月15日（水）、6月5日（水）、19日（水）、7月3日（水）、
17日（水）、9月4日（水）、18日（水）、10月2日（水）、16日（水）、
11月6日（水）、20日（水）、12月4日（水）、18日（水）、1月15日（水）、
2月5日（水）、19日（水）、3月5日（水）、19日（水）

・冬期休館

12月28日（土）～1月5日（日）

・ビルメンテナンスによる休館

4月7日(日)、4月29日(月・祝)、5月3日(金・祝)～6日(月・休)、
6月2日(日)、8月10日(土)～15日(木)、10月6日(日)、11月23日(日)

④2024 年度展示テーマおよび出展機関名

出展者数 19 社 8 団体 26 ブース

	展示テーマ	出展機関
1	コネクト・ザ・ワールド ～通信が世界をつなぐ、未来へつなぐ～	株式会社オプテージ
2	エネルギー・チャレンジ・ツアー エネッチャ！	関西原子力懇談会 関西電力株式会社
3	Starship Journey 見えないものを見る力。	非破壊検査株式会社
4	鉄のできるまで	日本製鉄株式会社
5	見つけよう！環境とエネルギーの“いま”と“みらい”	大阪ガス株式会社
6	アドベンチャートリップ ～ひたちぞうさんと一緒に島を救おう！～	日立造船株式会社
7	地球にやさしい環境技術～ごみは貴重なエネルギー～	株式会社プランテック
8	3億年前から存在する魚「チョウザメ」	株式会社フジキン
9	つくって、まなぼう！みんなのまちとくらし	株式会社大林組
10	「はかる」と「わかる」	株式会社堀場製作所
11	「まさつ」の謎にせまれ！～めざせ、ベアリングマスター～	NTN株式会社
12	リサイクル♻DISCO	三菱電機株式会社
13	宇宙への挑戦～未知なる世界を解き明かそう！～	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
14	海から地球を探る	国立研究開発法人海洋研究開発機構
15	街を守れ！カミナリバスターズ	音羽電機工業株式会社
16	LEDって何だろう？	利昌工業株式会社
17	金型の世界～全ての製品は金型から作られる～	一般社団法人日本金型工業会
18	ワイヤレス充電が描く未来社会	株式会社ダイヘン
19	幸せな未来をひらく、SDGs と国際協力	独立行政法人国際協力機構
20	くらしに役立つ水素のチカラ	岩谷産業株式会社
21	水素を使った新しいエネルギー社会	株式会社東芝
22	エネルギー情報コーナー	一般財団法人大阪科学技術センター
23	Nature Contact～みんなで地球の未来を考えよう！	株式会社日立製作所
24	原子力図鑑～小さな原子が持つ力を学ぼう～	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
25	ホアンくんと探そう 電気のキケン	一般財団法人関西電気保安協会
26	ひとかがく研究所	パナソニックホールディングス 株式会社

⑤開館日数

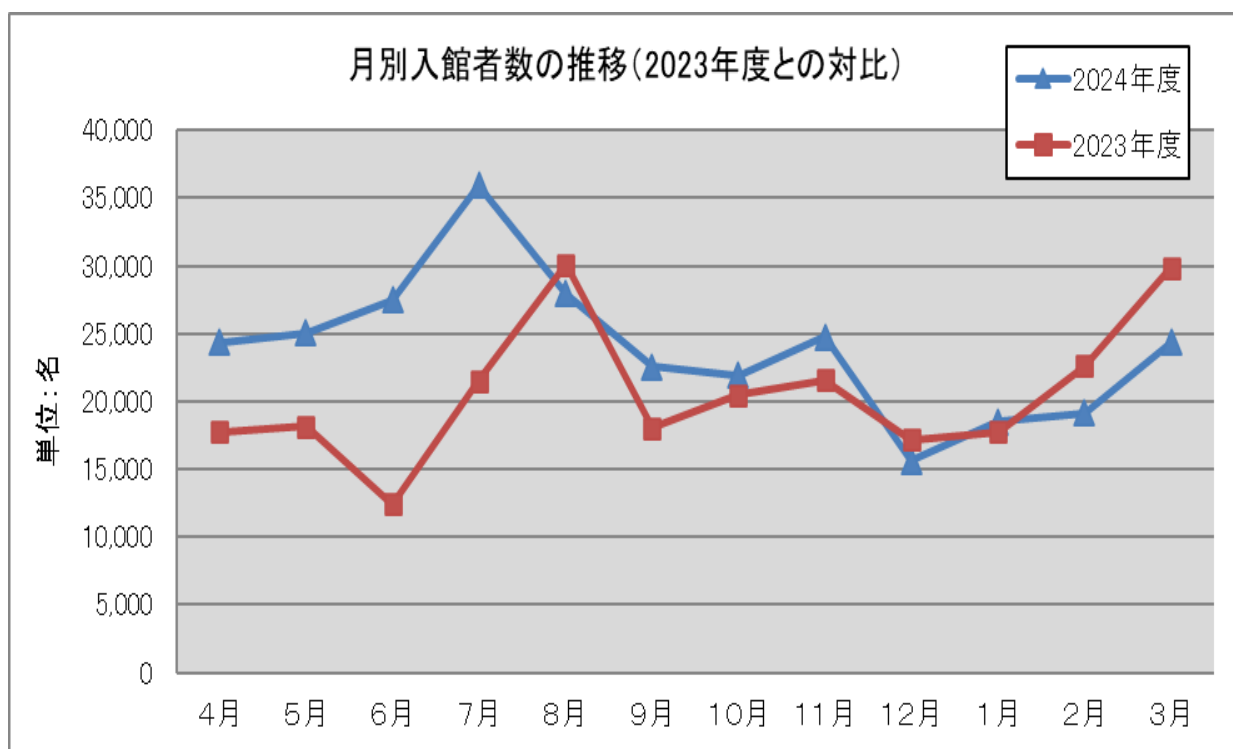
	2024年度	2023年度
平日開館日数	221日	205日
休日開館日数	101日	105日
計	322日	310日

⑥入館者数

	2024年度	2023年度
一般見学者	272,305名	233,171名
団体見学者	15,382名	14,342名
計	287,687名	247,513名
(1日平均)	893名	798名

⑦月別入館者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2024年	24,350	25,043	27,505	35,963	27,939	22,585	21,954	24,757	15,599	18,484	19,157	24,351	287,687
2023年	17,779	18,152	12,435	21,499	30,091	18,055	20,468	21,600	17,187	17,733	22,623	29,891	247,513



(2) 見学者サービス活動

①一般サービス活動

1) インフォメーションコーナーの設置 (1階)

科学館催事を中心とした情報提供を行うモニターとして「館情報提供モニター」を設置。また、ワークシートやパンフレットの自由配布等による情報提供

- 2) テクノ☆情報広場の設置（1階 リフレッシュスペース）
企業・大学・研究機関・団体等のさまざまな情報や取り組み等を動画等で紹介
出展機関：(株)クボタ、(公財)原子力安全技術センター、産業技術総合研究所 関西センター、
電磁界(EMF)に関する調査研究委員会、白光(株)、浜松ホトニクス(株)
- 3) VICS ドライブ・シミュレーターの設置（1階）
VICS センターからカーナビゲーションに素早く送られる渋滞や交通規制情報を受信しながらドライブ体験できるシミュレーターの設置
(協力：(一財)道路交通情報通信システムセンター (VICS センター))
- 4) 「テクノくんの健康くらぶ（体力測定ロボット）」の設置（1・2階）
館内巡回ツールとして、身長・体重・バランス感覚・敏捷性・握力・ジャンプ力を測定し、
体力年齢を診断するロボット6台を設置
- 5) プラナリア観察コーナーの設置（1階）
「プラナリア」を観察できるコーナーを1階インフォメーションコーナー前に設置
- 6) 展示ブース補完情報提供モニター「もっとリサーチ！パネル」の設置（1・2階）
出展機関の展示補完情報を映示するモニターを設置。過去の展示内容や外国語（英語・中国語・韓国語）での案内や各出展機関のトピックス情報を提供
- 7) ヒストリーパネル「新技術への挑戦」の設置（出展コーナー、1・2階展示ブース設置補完情報提供モニター内）
出展機関の技術開発のエピソードや開発の歴史の紹介
- 8) 「大阪科学技術館来館記念スタンプ」の設置（1階）
1階インフォメーションコーナー前に「大阪科学技術館来館記念スタンプ」を設置
- 9) スタンプ（ポイント制）カードの配布とコレクターバッジの作成
リピーター増を目的に、スタンプカードを来館者に配布。テクノくんをデザインしたコレクターバッジ（探偵テクノくん、クロスカントリーテクノくん、忍者テクノくん）を作成し、5回ご来館いただいた方に進呈
- 10) 「てくてくラリー」の設置（1・2階）
館内に3つのパネルクイズを設置し、全問正解するとリーフレットにスタンプを押印。クイズは季節ごとに変わり、4つの季節すべてのスタンプがたまるとノベルティを進呈。達成者の写真を館内に掲示
- 11) 「テクノくん顔出しパネル」の設置（1階リフレッシュスペース）
記念撮影用として「テクノくん顔出しパネル」を設置
- 12) 来館者記念物販コーナーの設置（1階リフレッシュスペース）
エコバッグ、マルチスタンド、レインポンチョ等のカプセルトイ販売機の設置
- 13) 見学順路、ブース表示灯の設置
館内床面に基本順路を表示。また、出展内容の技術を5つに分類し、色分けした床面シール、表示灯を設置
- 14) 授乳室の設置、車イス・ベビーカーの貸出
来館者サービスとして、授乳室の設置と車イス・ベビーカーの貸出
- 15) 出展者情報コーナーの設置（壁新聞の掲示ならびに配布）
社会に役立つ最新の科学技術・産業技術として、出展機関のタイムリーな情報を壁新聞にし、わかりやすく来館者に紹介ならびに配布
 - ・Vol. 54 (一社) 日本金型工業会「製品の品質を決める金型とは？」
 - ・Vol. 55 NTN(株)「あれにも、これにも、ベアリング！」
 - ・Vol. 56 カナデビア(株)「2024年10月1日、日立造船は『カナデビア』へ！」
 - ・Vol. 57 (株) 堀場製作所「はかるとわかる 行動(アクション)につながる」

＜来館者向け参加型イベント等の実施＞

- ・「卒園・卒業」「入園・入学」お祝いカードの募集と掲示（4月～5月）
- ・「七夕 テクノくん星に願いを」短冊の募集と掲示（6月～8月）
- ・「2024 テクノくんの夏の思い出フォトギャラリー」（9月～11月）
- ・「テクノくんへ年賀状をだそう！」の募集と掲示（12月～2月） 156件
- ・「卒園・卒業」「入園・入学」お祝いカードの募集と掲示（3月～）
- ・科学関連書籍等の設置

「子どもの科学」、「Newton」、「朝日小学生新聞」等

16) 「テクノくんワークショップコーナー」の設置（2階）

日曜開館時などに、サイエンス・ステージ（実験）や工作などを実施

- ・「令和6年『宇宙の日』記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト」大阪科学技術館賞の展示（12月～3月）

17) 「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)紹介広場」の設置（2階）

2025年大阪・関西万博について、壁面では概要、また床面では鳥瞰図を紹介、関連パンフレットの設置、また大阪科学技術館出展者および万博協会の関連映像の放映、ポスター掲示

18) イベント・情報コーナー「テクノくん広場」の設置（2階）

- ・特別展の開催

「鞆公園の自然と歴史、そして未来へ 2024『いのちの森・生物多様性公園をめざして』」

（3月11日～6月29日）

協力：鞆公園自然研究会

「宇宙開発の今、そして未来へ！～もっと身近になってきた宇宙をもっと知ろう！」

（7月6日～9月30日）

協力：宇宙航空研究開発機構、朝日小学生新聞、子供の科学、(株)タカラトミー

「『一家に1枚』20周年記念 20枚のポスターが教えてくれるさまざまな世界」

（10月5日～1月13日）

協力：科学技術振興機構、(公財)科学技術広報財団

「みんなの健康をかなえる、ささえる研究所が大阪にやってきた！～細胞や抗体ってなに？

もっと知ろう、くすりや自分のからだ・健康のこと～」

（1月16日～4月5日）

協力：国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所

- ・特別展示

「廃炉創造ロボコン参加ロボット」展示

（1月6日～3月18日）

協力：日本原子力研究開発機構、大阪公立大学工業高等専門学校

- ・家庭薬等に係わる「薬育」啓発コーナー

協賛：大阪家庭薬協会、小林製薬(株)、丹平製薬(株)、常盤薬品工業(株)、

横山製薬(株)、ロート製薬(株)

19) 「サンデー・サイエンス・スペシャル」の実施

件数：34件

20) 春イベントの実施

期 間：4月1日(月)～6日(土)

参加者数：7,515名（期間中来館者数）

内 容：見学会、実験教室等

21) 夏休みイベントの実施

期 間：7月13日(土)～9月1日(日)

参加者数：57,866名(期間中来館者数)

内 容：サイエンス・ステージ、実験教室、工作教室、お話し会、クイズラリー等

協 力：【クイズラリー】

NTN(株)、大阪ガス(株)、音羽電機工業(株)、海洋研究開発機構、

(一財)関西電気保安協会、(一財)道路交通情報通信システムセンター、

日本原子力研究開発機構、パナソニック ホールディングス(株)、非破壊検査(株)、

(株)フジキン、(株)堀場製作所、大阪市立自然史博物館、住友電気工業(株)、

(株)タカラトミー

22) 冬イベントの実施

期 間：12月8日(日)～1月13日(月・祝)

参加者数：18,690名(期間中来館者数)

内 容：サイエンス・ステージ、実験教室、ワークショップ、工作教室等

23) 春イベントの実施

期 間：3月20日(木・祝)～31日(月)

参加者数：13,046名(期間中来館者数)

内 容：体験教室、サイエンス・ステージ、実験教室、工作教室等

② 団体見学者サービス

1) 団体見学入館者状況

<累計>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
2024	件数	13	43	50	36	24	22	26	54	15	28	27	25	363
	人数	633	2,387	2,448	832	575	978	1,469	2,736	736	1,039	843	706	15,382
2023	件数	11	20	25	22	25	24	35	52	27	26	27	38	332
	人数	430	1,494	933	631	485	1,059	1,770	2,794	1,124	851	1,487	1,284	14,342

2) 団体見学コースの実施件数および内訳

- ・見学コース (Aコース) 278件
- ・映画コース (Bコース) 27件
- ・講座コース (Cコース) 1件
- ・科学実験コース (Dコース) 57件

(内訳)

電気のコース part 1	0件	極低温の世界コース part 1	35件
電気のコース part 2	1件	極低温の世界コース part 2	0件
空気のコース	2件	力のコース	0件
波のコース	0件	放射線のコース	2件
たのしい電気の工作教室	17件		

3) 館ホームページにて、調べ学習ならびに、団体見学者用にワークシートを作成・配布

(3) 見学者誘致活動

① アンケートの実施

- 1) 来館者を対象としたアンケートを行い、館の感想やニーズ等を調査

期 間：7月13日(土)～9月1日(日)

回答者数：青少年 1,305名、大人 324名

- 2) 団体見学引率者を対象としたアンケートを行い、館へのニーズや科学実験、講座、映画のコースへの要望等を調査

期 間：4月～3月

回答者数：205名

② 催事開催時におけるパンフレット・リーフレットの配布（約8,500部）

たのしい理科実験、エネルギー教室、特別出前教室等の実施の際に、パンフレット・リーフレットを広く配布し、科学館の知名度向上を図った。

③ 団体見学者誘致

- 1) 校外学習および修学旅行見学の誘致

学校や旅行会社等に、パンフレット、リーフレット等を送付 2,652件

- 2) ホームページでの誘致

団体向けの見学コースをホームページ上で案内 (<https://www.ostec.or.jp/pop/>)

- 3) パンフレット・リーフレットの館内設置、配布

④ 一般見学者誘致

- 1) ホームページでの誘致

イベント情報や壁新聞を掲載し、「テクノくん日記」においては、イベント開催告知等の情報を随時更新 (<https://www.ostec.or.jp/pop/>)

- 2) 各出展ブースの3D+VR映像公開

- 3) 大阪科学技術館名誉館長テクノくんのSNS

「Facebook(<https://www.facebook.com/technokun/>)」、

「X(旧Twitter) (https://twitter.com/osaka_technokun)」、

「Instagram(https://www.instagram.com/Osaka_technokun/)」、

「YouTube(<https://youtube.com/channel/UCSdJn61Wri9n8kh5owrbjra/featured>)」

にて、大阪科学技術館ブース紹介・クイズ、「ちょこっと実験」、イベント紹介等毎日更新

- 4) センタービル内5ヵ所にPRパネルの設置（8階、4階、地下1階）

- 5) PRサイン等の設置

- ・サインボードの設置（駐車場北側）
- ・サイン付街灯の設置（駐車場入口南側）
- ・ソーラーサインボードの設置（駐車場入口北側）
- ・壁イメージサインの設置（ビル東側外壁面）
- ・1階、2階北側シャッター面のイメージサインの設置
- ・大阪科学技術館とテクノくんのサイン設置（屋上西側）
- ・大阪科学技術館サインの設置（ビル1階西南側、西北側）
- ・大阪科学技術館サインの設置（ビル西南側外壁面2階～3階）
- ・大阪科学技術館箱文字サインの設置（2～3階間 南側壁面）
- ・テクノくんモニュメントの設置（1階ピロティ）

6) Osaka Metro 四つ橋線本町駅構内 2 ヲ所および肥後橋駅 1 ヲ所到大阪科学技術館広報看板掲示

7) Osaka Metro 中央線(本町駅) 車内放送広報(2025 年 2 月より)

8) 館パンフレット・リーフレット、ちらし等、配布・設置(科学館、博物館、区民センター、集客施設等、計 121 ヲ所)

9) テクノくん着ぐるみの活用

夏休み・冬イベント等にテクノくんが登場し、来館者を歓迎。また、大阪科学技術館のオリジナルカレンダーを作成した。

10) テレビ、新聞、雑誌等マスメディアによる広報

＜テレビ・ラジオ放送等＞ケーブルテレビの情報番組で 1 回放送

＜新聞掲載記事＞大阪科学技術館のイベント情報などが新聞記事に 22 回掲載

＜雑誌・広報誌等＞地域広報誌、情報誌などに計 12 回掲載

＜インターネット＞Osaka Metro、じゃらん net、大阪観光局 Web サイト、JR おでかけネット等のウェブサイトに掲載

11) 全国科学館連携協議会への参加

全国科学館連携協議会からシンポジウム、研修等の情報提供を受けるとともに連携強化に努めた。

・総会 6 月 10 日(月) 他館の活動状況等、取り組みなどの情報を収集

(4) 大阪科学技術館の案内リーフレット・パンフレットの制作

館案内リーフレット、パンフレットを制作した。

(5) 館の防犯・警備・安全の強化

館内全域に防犯カメラを設置し、事故防止及び警備体制ならびに安全確保を図った。またハードディスクによる館内画像記録を行った。

(6) 新型コロナウイルス感染症感染予防と拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症感染予防と拡大防止対策として、日中の定期的な館内消毒を行った。

(7) 地域共生活動・協力事業等

大阪市高速電気軌道(株)(Osaka Metro)との連携イベントへの参加や、近隣の小学校・高等学校の職業インタビュー対応、出展機関および近隣施設において実験・工作教室等を実施した。また2025年日本国際博覧会協会と連携し、大阪科学技術館にて、ポスター展示およびPR映像の上映を行った。

2. 広報事業

科学技術への関心を高めると同時に、正しい知識の普及広報を行うべく、継続して実施している青少年をはじめ、一般市民を対象とした講座、実験、工作教室等に加え、新たな参加者獲得に向けて、理科教育に携わる教育機関等との連携を深めながら、幅広い層が興味を持って参加できる事業を企画・実施した。

(1) 青少年対象活動

①サイエンス・メイト事業

1) 組織の拡充

サイエンス・メイト活動の拠点として、大阪科学技術館等においてキャンプ・実験教室等を行い、大阪科学技術館イベントや館内での案内展示、サイエンス・メイトホームページ等による募集広報を行った。

・会員数 1,075 名(新会員 351 名) ※昨年度 974 名(新会員 262 名)

2) 行事活動

- ・電子工作教室「めっちゃ回る！永久ゴマ！」 参加者 30 名
- ・科学実験教室「チョコレートの科学&しゅわしゅわおやつを作ろう！」 参加者 33 名
- ・実験工作教室「バイオ実験教室 作って！観察！紙の顕微鏡」 参加者 19 名
- ・実験工作教室「びりびりばんばんぼ〜ん 〜静電気の実験道具を作ろう〜」 参加者 28 名
- ・夏キャンプ「夏のチャレンジャーキャンプ」 参加者 24 名
- ・自然観察会「淀川で生き物ウォッチング&水質調査」 参加者 親子 9 組 19 名
- ・実験教室「分光つつで SDGs を考える！」 参加者 17 名
- ・サイエンスクッキング「親子アカデミッククッキング 〜コーンフレークチョコクッキーを作って知ろう！砂糖の科学〜」 参加者 親子 27 組 64 名
- ・プログラミング教室「ロボット・プログラミング 〜SCRATCH を学んで、使って、動かそう！〜」 参加者 親子 15 組 30 名

②助成金制度の活用

(公財)東京応化科学技術振興財団「第 19 回科学教育の普及・啓発助成」の助成を受け、科学技術週間行事イベント「サイエンス・メイトフェスティバル」を行った。

1) 科学技術週間行事イベント

「サイエンス・メイトフェスティバル2024」 参加者3,059名

③特別支援学校等での出前実験教室「おもしろい！なんでだろう？サイエンス・ラボ」の実施

関西地域を中心にした聴覚支援学校・盲学校ならびに病院等へ状況に応じ、出前実験教室または遠隔授業、教材提供を行った。

- ・実施地域：大阪市、堺市、神戸市、京都市（4 地域）
- ・実施件数：13 件（18 講座、教材提供3件）
- ・参加者数：児童・生徒171名、保護者20名、教職員130名 計321名
- ・協賛：かるがも基金（ロート製薬(株)）、(株)モリタホールディングス、
(一社)日本補聴器販売店協会近畿支部
- ・協力：大阪府教育委員会、国立大学法人 大阪教育大学

④「宇宙の日」記念行事 全国小・中学生 作文絵画コンテストにおける賞の選定、授与および作品展示

主催：宇宙航空研究開発機構、(公財)日本宇宙少年団

後援：文部科学省、内閣府宇宙開発戦略推進事務局

協力：宇宙なんちゃらこてつくん、鹿児島県

- ・大阪科学技術館賞の選定

9 月 12 日の「宇宙の日」を含む 9 月上旬から 10 月上旬までの「『宇宙の日』ふれあい月間」で開催される行事の一環として行われた作文絵画コンテストにおいて、大阪科学技術館へ応募された作文・絵画について、当館において大阪科学技術館賞の入賞作品(最優秀賞、優秀賞、佳作)を選定し、表彰式ならびに作品展示を行った。

- ・テーマ

「きみの考える宇宙ロボット！ - 宇宙に連れて行くきみの相棒 -」

- ・大阪科学技術館賞の作品展示

期 間：2024 年 12 月 7 日(土)～2025 年 3 月 31 日(月)

⑤大阪府学生科学賞における賞の授与

(主催：大阪府教育委員会、大阪府科学教育振興委員会、読売新聞大阪本社)

学生科学賞への応募の中より最優秀賞 大阪科学技術センター賞に3点が選ばれた。

⑥特別出前科学教室の実施

- ・実施地域：大阪市、島本町、豊中市、枚方市、尼崎市、京都市（6地域）
- ・実施数：10団体(15講座)
- ・参加者数：1,643名

⑦大学生等実習生の受け入れ・指導

大阪教育大学が行う教育施設等での教育協働体験学習にて、当財団職員指導のもと、青少年科学クラブ「サイエンス・メイト」での実験・工作の指導補助を行った。

①2024年

実習期間：2024年3月～8月(計30時間程度)

実習生数：3名

②2025年

実習期間：2025年3月～8月(計30時間程度)

実習生数：5名

(2)一般市民対象活動

①特別出前講座の実施

- ・実施地域：泉大津市、東京都（2地域）
- ・実施数：2か所
- ・参加者数：88名

②LSS（レディース・サイエンス・セッション）の開催

1)LSS委員会

・第1回委員会

日時：2024年6月6日(木) 10:00～11:20

開催場所：大阪科学技術センター4階 402号室

議題：2024年度LSS「サイエンスカフェ」の具体的な進め方について
その他

・第2回委員会

日時：2025年2月13日(木) 10:30～11:30

開催場所：大阪科学技術センター4階 403号室

議題：2024年度LSS活動報告について
2025年度LSS活動計画について
その他

2)LSS サイエンスカフェの開催

一年を通して降り注ぐ紫外線をはじめ、光のメカニズムや、私達を元気にしてくれる「美容」について情報発信することで、女性・男性問わず、紫外線対策や美容による心のケアについて考える機会を提供した。

月 日	内 容	参加者数
10月19日(土)	第24回LSSサイエンスカフェ 「外から内からキレイをサイエンス～知りたい！日焼けのメカニズム、なりたい！キレイで元気な毎日～」 ・講演①「紫外線対策～身の回りの“光”と日焼けのメカニズム～」 講 師：兵庫医科大学 物理系薬学分野 助教 川島 祥 氏 ・講演②「男女必見！美活の基本 直ぐできる！今やれる！元気を 作るキレイの極意！！」 講 師：武庫川女子大学 薬学部 健康生命薬科学科 客員教授 谷 都美子 氏 ・パネルディスカッション ファシリテーター：大阪教育大学 教育学部 教授 井奥 加奈 氏 大阪ガス(株) 広報部 グループ広報企画チーム 中村 さわ子 氏 ・体験・パネル展示 ハンドセラピー体験、美容製品の紹介 日焼け・美容に関連するパネルやパンフレットの提示 ・協 賛：大阪ガス(株)、(株)大林組、カナデビア(株) ・協 力：サントリーホールディングス(株)、(株)ナリス化粧品、 (一社)日本介護美容セラピスト協会	79名 〈内訳〉 来場 49名 オンライン 30名

③科学技術週間行事

1) 第65回科学技術映像祭入選作品映像上映

上映期間：4月15日(月)～21(日)

参加者数：5,081名

2) 「一家に一枚」ポスターの配布

毎年文部科学省が発行する「一家に1枚」ポスターを、4月15日(月)より配布した。

〈テーマ〉 「世界とつながる“数理”」

3) サイエンス・メイトフェスティバル2024(再掲)

3. エネルギー広報活動

エネルギーに関する意識喚起、理解増進活動を図るべく、次世代層や教職員等を対象に、カーボンニュートラル等の我が国のエネルギー政策を始め、水素エネルギー・放射線など時勢に応じた適切な情報を提供した。また、国等の委託事業の受託実績を踏まえ、各層・地域に応じた、エネルギー理解促進事業に資する新規事業の模索を図った。

(1) 意見交流活動

①企画立案検討会

・第72回企画立案検討会

日 時：2024年10月4日(金) 14:30～15:30

場 所：大阪科学技術センター 6階 601号室・オンライン

議 案：2024年度上期エネルギー広報事業報告について

その他

・第73回企画立案検討会

日 時：2025年2月17日(月) 14:40～15:30

開催方法：日本原子力研究開発機構 檜葉遠隔技術開発センター 第1会議室

議 案：2024年度エネルギー広報事業報告について

2025年度エネルギー広報事業計画について

その他

・見学会

日 程：2024年7月18日(木)～19日(金)

場 所：日本製鉄(株) 北日本製鉄所 室蘭地区、室蘭市水素サプライチェーンモデル構築・実証事業

石油資源開発(株) 勇払プラント、北海道曹達(株) 苫小牧事業所

参加者数：8名

・視察会

日 程：2025年2月17日(月)

場 所：福島第一原子力発電所、日本原子力研究開発機構 檜葉遠隔技術開発センター

参加者数：5名

②エネルギー懇談会

日 時：2025年3月6日(木) 16:00～17:30

場 所：大阪科学技術センター 7階 702号室、オンライン

講 演：「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)について」

(公社)2025年日本国際博覧会協会 理事・副事務総長 櫛 真夏 氏

参 加 者：15名

(2) ニーズに合わせたエネルギー情報の発信、提供活動

①エネルギー教室検討会

理科ならびに社会科の教職員をはじめ、教育現場の意見を取り入れ、新たな実施内容の構築に向け実施した。

1) 第37回エネルギー教室検討会

日 時：2025年2月25日(火) 18:00～19:00(検討会)、19:00～20:00(講演)

場 所：大阪科学技術センター 4階 403号室

議 案：2024年度「エネルギー・環境出前教室」の事業報告について

2025年度「エネルギー・環境出前教室」の事業計画について

2025年度エネルギー教室、ティーチャーズスクールの募集について

その他

講 演：「中学・高校でのエネルギー教育実践に向けて

～子どもたちが将来のエネルギーに関心を高められる科学技術をめぐって」

近畿大学 副学長 理工学部 エネルギー物質学科 教授 渥美 寿雄 氏

参 加 者：20名

②小学校での活動（「たのしい理科実験」の実施）

理科を切り口にエネルギーや地球環境に関して、実験や体験を通して楽しく正しく理解することを目的とした、移動科学教室「たのしい理科実験」を実施した。

- ・実施地域：枚方市、大阪市、堺市、神戸市
- ・実施校数：16校(44講座)
- ・参加者数：児童3,137名、教職員161名 計3,298名
- ・後援：堺市教育委員会、神戸市教育委員会
- ・協力：枚方市教育委員会、大阪市小学校教育研究会 理科部
- ・テーマ：「エネルギーのひみつを探れ!!」

○実験・実演

- ・電気に関する発見、発明の解説(エジソン電球の実験)
- ・発電のしくみの解説(簡易型火力発電実験装置で、蒸気発電のしくみについて解説)
- ・地球環境問題の解説
- ・エネルギー事情の解説
- ・新エネルギー、新技術の解説(アルキメデスの光線銃、特斯拉コイルによる放電実験)
- ・ライデン瓶を使った百人おどし実験
- ・省エネ技術の解説(自分たちで取り組める省エネの解説)
- ・電球の見分け方の解説(分光シートを使ったカードの配布)

○おまけ実験

- ・巨大空気砲の実験

③中学校等での活動（「エネルギー教室」の実施）

未来を担う青少年に、環境やエネルギー問題に対する興味と正しい知識をさまざまな形で提供することを目的に、体験型授業として「エネルギー教室」を各学校にて実施した。

- ・実施地域：大阪市、東大阪市、藤井寺市、神戸市、尼崎市、京都市、福知山市、舞鶴市、宮津市、奈良市、生駒市、高島市、霧島市
- ・実施校数：27校79講座
- ・参加者数：児童261名、生徒2,087名、教職員127名 計2,475名
- ・後援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、神戸市教育委員会、尼崎市教育委員会、伊丹市教育委員会、京都市教育委員会、奈良市教育委員会、生駒市教育委員会、国立大学法人大阪教育大学
- ・協力：枚方市教育委員会

④教職員向け活動（「ティーチャーズスクール」の実施）

教職員の方に環境やエネルギーについて、より高い関心をお持ち頂き、児童・生徒たちの興味を一層引きつける授業を実施して頂くことを目的に、専門家が実験の準備から児童・生徒への説明の要点まで解説する「ティーチャーズスクール」を実施した。

- ・実施地域：大阪市、泉大津市、泉南郡、三島郡、守口市
- ・実施数：申込6団体、自主開催1回(7講座)
- ・参加者数：教職員166名
- ・後援：大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、神戸市教育委員会、尼崎市教育委員会、伊丹市教育委員会、京都市教育委員会、奈良市教育委員会、

生駒市教育委員会、国立大学法人大阪教育大学

- ・協力：枚方市教育委員会

⑤一般市民向けエネルギー広報活動

一般市民向けのエネルギー広報活動を行った。

- ・実施地域：福井県南条郡
- ・実施数：1団体(1講座)
- ・参加者数：児童 273 名、教職員・保護者 150 名 計 423 名

⑥教職員・自治体職員向け放射線・原子力防災教育活動

自治体職員向けのエネルギー広報活動を行った。

- ・実施対象：滋賀県市町職員（危機管理・防災担当、警察・消防、原子力災害・医療関係機関等）
- ・実施数：1団体(1講座)
- ・参加者数：23 名

(3) エネルギー情報の常時発信活動

①大阪科学技術館 エネルギー情報コーナーの整備

1) エネルギーに関する書籍の整備

- ・新規書籍 6 冊

2) 映像ソフトの上映

②エネルギー情報の発信

エネルギー情報コーナーにて、エネルギーに関する資料配布を行った。

- ・資料配布数：1,768 部

(4) エネルギー広報ツールの整備と貸出

①エネルギー広報ツールの整備

- ・放射温度計購入 20 台
- ・直流交流電源装置購入 1 台
- ・生物顕微鏡購入 1 台
- ・放射線測定器校正 6 台

Ⅱ 技術振興事業

2024 年度の技術振興事業においては、経済活性化に繋がるような事業の拡充、新たなイノベーションシステムの創出、さらに次世代の科学技術振興の原点となる人材育成支援など、科学技術の振興に資する事業を積極的に展開した。

社会的に注目されているカーボンニュートラルに関連する分野について、実証サイト視察、研究会を通じた知見の蓄積や技術開発支援など、多様な視点から多岐にわたる活動を活発に進めた。また、中堅・中小企業における技術振興と事業化支援においては、経済産業省の補助事業である成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）について、国内で最多となる計 22 件のプロジェクトの事業管理を推進した。さらに、人材養成事業については、ものづくりにおける AI などのデジタル技術を実務レベルで活用するための研修を重点的に展開した。

技術開発委員会事業においては、カーボンニュートラルをはじめ、イノベーションにかかわる科学技術分野における先進の技術開発に関する知見を深掘りすると共に、ものづくりにおける AI などのデジタル技術を実務レベルで活用するための人材養成を重点的に推進した。

エネルギー技術対策委員会事業については、社会活動の基盤となるエネルギー関連技術について、カーボンニュートラル社会に向けて注目度が高まっている水素やバッテリーなどを中心に、実証サイトの視察も行いながら、最新の技術動向や今後の方向性に関する知見を深めた。

中堅・中小企業技術振興委員会事業に関しては、中堅・中小企業における技術振興と事業化支援を図るため、産学官が連携した情報交流、調査研究、研究開発支援等を展開し、関西地域で強い地盤を有するものづくりの更なる高度化に関する活動を積極的に推進した。

地球環境技術推進懇談会事業について、サーキュラーエコノミーや上下水道など、持続可能な環境技術の社会実装に向けて、北海道から九州までの全国各地の先進の実証・商用プラントの視察に加え、研究会を通じてトレンドの技術や産業化の動向および課題に関する知見を蓄積した。

大阪科学賞について、2024 年度は宇宙線と細胞培養に関する若手研究者 2 名に授賞し、記念講演では 100 名超の高校生を招待して、授賞者との意見交換会の開催など、次世代層へのサイエンスの魅力を啓発する活動を実施した。

1. 技術開発委員会事業

技術開発委員会のもと、科学技術における研究開発と産業化を促進するため、産学官等の連携による情報交流、調査研究等を展開した。

(1) 技術開発委員会

(産業界 25 社、学界 6 名、官界 11 名)

産学官等の委員及び幹事による科学技術振興及び産業化課題の抽出と対応方策を検討、審議した。フォトリソ技術フォーラムでは会長・副会長を交代し新体制にて活動を実施した。過熱水蒸気新技術研究会についても順調に活動を展開した。また、「産業界におけるカーボンニュートラル研究会」も見学会を除く定例研究会では毎回 120 人超の参加者を迎え順調に 3 年目の活動を展開。また、人材養成事業についても順調に活動を展開した。

◇開催実績（委員会 1 回・幹事会 1 回）

・第 55 回技術開発委員会

日時：2025 年 2 月 26 日（水）（オンライン・対面併用）

議題：2024 年度技術開発委員会事業報告、2025 年度技術開発委員会事業計画

講演：「心理学的アプローチによるプロジェクト活性化とイノベーション創出」

大阪大学 大学院工学研究科 教授 森 勇介 氏

・2024 年度第 1 回幹事会

日時：2025 年 2 月 5 日（水）（オンライン）

議題：（1）2024 年度技術開発委員会事業報告

（2）2025 年度技術開発委員会事業計画

＜活動内容＞

【所管する研究会等の活動】

（1）フォトニクス技術フォーラム

（産業界 7 社、学官 32 名：研究会 5 回、幹事会 6 回）

フォトニクス技術に関する情報交流、調査研究を通じて、関西の光情報技術・次世代光学素子技術の底上げ、産学連携の拡大に資する。フォトニクス技術の研究開発と活用事例の両面から、広く技術・用途を探り、人的ネットワークも広げ、今後のフォトニクスのあり方を考えることを目的に 2024 年度は、1 期 2 年の前半として、これからの画像技術とそれを実現するデバイス、計測技術に視点を当て、広く新たな技術・用途を探り、今後の光技術のあり方やその技術限界・境界領域を知ることとして年間 5 回の研究会を来場とオンラインのハイブリッドにて開催した。

各定例研究会のテーマは「医療・ヘルスケアと光」、「光技術を用いた新たな測定技術」、「量子情報と光学」、「光学技術における新たな加工技術」、「光学技術の新展開」とし、多岐の話題を取り上げた。

（2）過熱水蒸気新技術研究会

（産業界 11 社、学界 6 名、個人 1 名：研究会 3 回、幹事会 6 回）

過熱水蒸気利用による基礎技術および応用に関わる情報交換、及び産学官研究者ネットワークの構築。特に、1000℃超の高温を数度で制御する過熱水蒸気の工業応用を探索し普及を推進することを目的とし、持続可能性に資する過熱水蒸気のクリーンな特徴を生かした多様な応用技術の可能性や普及の調査研究を実施した。

2024 年度は種々会員企業が興味のあるカーボンニュートラルやグリーン化の内容に関わる過熱水蒸気の新たな用途展開等を調査し、過熱水蒸気の普及を推進する活動を行った。

定期研究会を年 3 回開催し各回ともテーマを決めず基礎研究、工業への応用など多岐にわたる話題を取り上げた。

（3）産業界におけるカーボンニュートラル研究会

（産業界 30 社、学界 7 名、オブザーバー 8 機関：研究会 8 回、グループワーク 5 回、幹事会 3 回）

最終的なカーボンニュートラル社会を実現できるカーボンニュートラルシステムとはどういうものか、それを成立させるための技術オプションは何かを明確化・共有することにより、一社では対応困難な対策立案に資するところまでを主たる目的として、今年度は様々な情報を正しく把握し、共有化することを目指し

各業界、学界、政府等の有識者による講演会の開催を通じ参加者間の交流と率直な意見交換、交流を図った。

また、日本版カーボンニュートラルシステムのイメージづくりをテーマとして、若手が率直に意見を交換し、業界を超えた人脈形成につながる場として、小林会長が自ら指導するグループワークを昨年度から2年計画で実施し、今年度に最終報告を行った。

(4) 人材養成事業

1) ネクストリーダー育成ワークショップ

「幅広い視点から考え・整理できる力を身に付け、技術と時代の変化に対応し、新しい価値づくりに挑戦するリーダーを養成する」ことを目的に、上期と下期に1テーマずつ実施した。

ファシリテーター：黒田 聡（(株)情報システムエンジニアリング 代表取締役社長、(一財)テクニカルコミュニケーター協会 評議員、公益活動企画会議議長）

- ・第13期：テーマ「モノづくり企業の新規事業の実践手法」（5回シリーズ）
- ・第14期：テーマ「テクノロジー活用によるモノづくり企業のイノベーション」（5回シリーズ）

2) 専門集中講座「AI・IoTによるスマート工場2日間集中講座」

自社に合ったスマート工場を構築するために、範囲が広くて掴みづらいIoTに関する実践的な専門知識を2日間集中の講義と演習で習得することを目的に実施した。

- ・講師：高安 篤史 氏（合同会社コンサルンス 代表、中小企業診断士）

3) 専門集中講座「プラント運転・保安等で求められるデジタル技術人材の育成講座」

プラント運転・保安等におけるデジタル技術の活用などによるスマートプラントの推進を実践できるようになるための専門知識を2日間集中の講義と演習で習得することを目的に実施した。

- ・講師：高安 篤史 氏（合同会社コンサルンス 代表、中小企業診断士）

4) 1社研修

企業における人材育成の課題や要望などの個別ニーズに応える研修プログラムを提供することで、企業の生産性向上やデジタル変革に繋げることを目的に実施した。

- ・テーマ：「生産現場・間接部門のデジタル化研修」（8回実施）

2. エネルギー技術対策委員会事業

エネルギー技術対策について、調査研究機能、情報発信・情報交流の場としての機能を活かし、最新の開発状況の調査や課題等についての検討を実施した。

(1) エネルギー技術対策委員会

（産業界24社、学界4名、官界9名）

- ・国の施策に沿った研究開発課題に係る調査研究活動、技術情報交流活動である3つの研究会/部会の事業報告ならびに事業計画を審議した。

◇開催実績（委員会1回・幹事会1回・主催講演会1回）

- ・第63回エネルギー技術対策委員会（オンライン・対面併用開催）

日時：2025年3月6日（木）

議題：2024年度委員会事業報告（案）、2025年度委員会事業計画（案）

講演会：「AI・ロボティクスの進展とその電力需給への影響」

(株) 三菱総合研究所 シンクタンク部門 先進技術センター

主任研究員 齋藤 達朗 氏

・第 80 回幹事会（オンライン・対面併用開催）

日時：2025 年 2 月 20 日（月）

議題：2024 年度委員会事業報告（案）、2025 年度委員会事業計画（案）

・主催講演会：日本における将来のエネルギーのあり方

日時：2024 年 11 月 26 日（金）15:00～17:20

講演 1：「節電の経済学」

京都大学大学院経済学研究科・教授 依田 高典 氏

講演 2：「次世代スマートメーターへの期待と展望」

早稲田大学 スマート社会技術融合研究機構 研究院教授 石井 英雄 氏

<活動内容>

【所管する研究会等の活動】

(1) スマートエネルギー／スマートコミュニティ研究会

(産業界 10 社、学界・官界 9 名：研究会 7 回)

2024 年度は、GX 実現に向けた基本方針に基づく再生可能エネルギーの導入促進、それに伴う脱炭素化された調整力としての定置用蓄電池および水素・アンモニアの導入促進、電力取引市場の整備、次世代自動車の進化、デジタル技術のさらなる進展など、スマートエネルギー/スマートコミュニティに係るビジネスモデル等の変化について注視し、研究活動を進めた。

その結果、スマートコミュニティ海外実証（スマートモビリティ実証@フィリピンなど）でのみ概要、ウーブン・バイ・トヨタ（株）が開発中の「Woven City」の概要および本社オフィスのコンセプト等、欧州・米国・ASEAN 地域でのエネルギー関連政策（脱炭素化目標等）動向、洋上風力発電の事業開発状況等、幅広い分野から情報収集を行い知見を広げることができた。

(2) 水素・燃料電池部会

(産業界 37 社、学界・官界等 58 名：部会 6 回、公開シンポジウム 1 回、実行委員会 2 回)

2024 年度は、第 14 期の 1 年目として、燃料電池分野では高効率化や長寿命化に資する新技術等の開発、社会への普及および市場拡大、水素分野ではモビリティやインフラの社会実装に関する動向を把握し、水素利用技術についての理解を深め、2040 年に商用化を目指している合成燃料の製造技術の確立、製造効率の向上など、次世代技術の開発状況等について調査を行った。また、両分野の国・自治体での施策等取組状況等についても合わせて調査し、関心の高い技術テーマの情報交流およびディスカッションを行った。その他、関連する分野における海外の動向についても情報収集を行い、国内外の比較、相違点の整理を行った。

定例研究会は 7 回（うち 1 回は公開シンポジウム）開催し、水素・燃料電池技術の研究開発動向と題して水素・燃料電池船の開発状況や水素ステーションの設置状況および課題、カーボンフリー燃料と題して航空機燃料 SAF への取組みなど、その他、関西電力(株)舞鶴発電所内にある CO2 分離・回収実証設備、(株)神戸製鋼所のハイブリッド型水素ガス供給システム実証設備や NC チタンの表面処理工場および三菱重工業（株）の高砂水素パークを見学させていただき、各社の取組み状況についても情報共有することができた。

(3) アドバンスト・バッテリー技術研究会

(産業界 34 社、学界・官界等 38 名)

2024 年度は、第 8 期の 3 年目として、2050 年カーボンニュートラル実現へ向け、日本経済の牽としてますます重要度が増している「自動車・蓄電池産業」のキーとなる新型二次電池に関する技術情報に加え、「蓄電池産業戦略」の中間報告にも掲げられた次世代蓄電池の研究開発や製造能力の向上など、市場や産業界の動向も踏まえた情報交流を中心に活動を行った。また、社会のスマート化 (DX) とグリーン化 (GX) の推進に資するべく、定置用、車載用の蓄電デバイスの標準化、安全性、耐久性、大容量化、リユース・リサイクル、国内外の電池開発の動向、次世代電池や全固体電池等の実用化を見据えた材料開発等の最新技術動向など会員の関心の高いテーマを引き続き取り上げた。

定例研究会は 7 回 (うち 1 回は公開シンポジウム) 開催し、西仙台変電所にある定置用蓄電池の運用状況、電池材料評価等に使用する 3GeV 高輝度放射光施設 NanoTerasu (2024 年 4 月運用開始)、プロセスインフォマティクス技術を活用した電池材料研究、バッテリー自動交換実証試験、自動車・宇宙・鉄道分野における蓄電池開発状況等、会員の関心の高いテーマ (分野) の情報を共有することができた。

(4) 電磁界 (EMF) に関する調査研究委員会

(学界 7 名)

2024 年度より新規委員会の活動を開始し、ひき続き超低周波電磁界の健康影響に関する情報収集と、一般に向けた正しい知識の理解促進活動を行った。また、市民向けセミナーでのアンケート結果について意見交換を行った。

・開催実績

第 1 回委員会 (9/3) 第 2 回委員会 (3/11、中央給電指令所の見学付き)

施設見学会 2/18 関西電力送配電 (株) 新生駒変電所他

一般広報としては、大阪科学技術館内活動 3 回、PR 資料の年間上映、冊子「暮らしの中の電磁界」配付、市民向けセミナー「暮らしの中の電磁界とわたしたちの健康」2 回 (10/9、2/4) を実施した。

3. 中堅・中小企業技術振興委員会事業

委員会所管事業である異業種交流活動のマーケット&テクノロジー研究会 (MATE 研究会)、コンサルティング活動の ATAC (Advanced Technologist Activation Center) 事業、成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech) 提案支援など各種事業に取り組んだ。Go-Tech 事業に関しては事業管理機関として、20 テーマの研究開発事業を推進した。

また、(独)中小企業基盤整備機構 近畿本部と共催で「ものづくり中小企業のための支援策勉強会」を開催し、中小企業支援策の紹介と申請時のポイントを解説することにより、これらの施策に関心をもって頂き、自社技術の高度化にチャレンジされるきっかけに資する活動を推進した。

さらに、令和 5 年度から受託した高槻市ビジネスコーディネーター事業は、高槻市内のものづくり中小企業の創造性と自立性を高める各種活動を実施した。

(1) 中堅・中小企業技術振興委員会 (委員会：産業界 13 名、学界 1 名)

MATE 研究会、ATAC、Go-Tech 事業、中堅・中小企業向け主催講演会など委員会所管事業に関する計画と報告について審議した。

◇開催実績（委員会 1 回）

- ・第 1 回委員会（2025/3/10）

日時：2025 年 3 月 10 日

議題：2024 年度事業報告について、025 年度事業計画について

講演会：「中小企業の CSR コミュニケーション－会社の魅力をもっと発信しよう－」

愛知産業大学 経営学部 総合経営学科 教授 山崎 方義 氏

<活動内容>

【所管する研究会等の活動】

(1) マーケット&テクノロジー研究会（MA T E 研究会）

（産業界 16 社、アドバイザー 3 名、オブザーバー 1 名）

- ・総会、記念講演（5/23）

・議案(1)2023 年度事業報告について (2)役員について (3)2024 年度事業計画について

・講演会「日本の伝統産業とイメージネーション&クリエイティブから見えてくるもの」

講師 平山 弘 氏（阪南大学 学長）

- ・定例研究会 2 回

- ・講演会「水素社会と高圧水素タンクライナー材料の開発について」

講師 徳光 勝久 氏（滋賀県立大学 工学部材料化学科 教授）

- ・講演会「行動経済学で発想する人の動かし方」

講師 山田 歩 氏（滋賀県立大学 人間文化学部 生活デザイン科 准教授）

- ・見学会（企業訪問） 1 回

木村石鹼工業（株）三重伊賀工場

講演「愛される会社、ブランドをつくろう」－ 木村 祥一郎 氏（代表取締役）

- ・サロン・ド・メイト（3/5、年間報告会）

- ・講演会「社会的価値共創と持続可能な経営」

講師 関 智宏 氏（同志社大学 商学部 教授／中小企業マネジメント研究センター長）

- ・会員専用ウェブサイト上でのオンライン交流（通年）

(2) A T A C（Advanced Technologist Activation Center）（会員数 24 名）

- ・民間企業技術系 OB を中心とした組織の特徴を活かし、技術に関する相談を中堅・中小企業を中心に行い、企業が抱える品質と生産性の改善、製造技術・新製品の開発などの技術課題について、具体的な解決策を提示し、中堅・中小企業の技術振興支援を図った。

- ・ものづくり補助金、事業再構築補助金等の申請書作成支援を行った。

- ・1 回／月開催の運営委員会、2 回／月開催の ATAC 研究会を開催し、クライアントの抱える課題の共有や解決策の議論、新たな活動方針の検討などを行った。

- ・研究会：22 回（4/10、4/25、5/8、5/23、6/12、6/27、7/10、7/25、8/29、9/11、9/26、10/9、10/24、11/8、11/21、12/4、12/19、1/24、2/12、2/27、3/12、3/27）

- ・総会：1 回（5/23）

- ・第 26 回きたしんビジネスマッチングフェア 2024 出展（11/6-7）

- ・コンサルティング契約件数・金額（昨年度からの継続分含む）：23 件 13,404,314 円

(3) 高槻市ビジネスコーディネーター（BC）事業（高槻市委託事業）

（ビジネスコーディネーター（BC） 6 名（内 ATAC 会員 5 名））

高槻市内の中小企業（主に製造業）にビジネスコーディネーター（BC）を派遣し、企業が抱える経営上の課題の把握・整理、適切な助言等の支援を行い、当該企業の創造性と自立性を高めることを目的として以下の諸活動を行った。

- ・経営革新等の啓発・動機付けや企業が抱える経営上の諸課題を解決するため、企業へのヒアリング、適切な指導・助言及び外部経営資源等の紹介。
- ・企業の新技術の開発・販路拡大などを促進するため、企業間のマッチング等を推進。
- ・市内企業間の交流や連携促進を図る「高槻市ものづくり企業交流会（機械・金属加工 G、電気・電子機器 G、樹脂加工 G、食品加工 G の 4 分科会）」の活動を促進するため、交流会の管理・運営等に対する支援。
- ・市報告 4 回 BC 連絡会議 12 回、高槻市ものづくり企業交流会 16 回を実施。

【研究開発事業】

(1) 成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech)

（近畿経済産業局補助事業、(1)-13 以降は 2024 度新規採択）

2024 年度は新たに 8 件採択され、継続分を合わせ、計 20 件のプロジェクトの事業管理を実施した。

（2022 年度採択分）

- (1)-1 「金属と樹脂との加熱圧着直接接合技術を用いた角型 L i B の高気密封口板開発及び低コスト製造装置開発」
- (1)-2 「S D G s 対応型、産業廃棄物等を大幅に削減できる塗装前処理工法の開発」
- (1)-3 「M y i P S の実現を可能にする簡易閉鎖型培養システムの研究開発」
- (1)-4 「成人 T 細胞白血病（A T L）早期発見のための画像 A I 技術の確立と A T L 判定支援システムの開発」
- (1)-5 「爪先毛細血管スコープの自動化開発と健康経営向け企業従業員健康管理システムの開発」

（2023 年度採択分）

- (1)-6 「国産針葉樹を高耐久化するための持続可能な化学修飾法の開発」
- (1)-7 「アルパカ V H H 抗体を用いたサンドイッチ法の高度化による「スマート V H H - E L I S A」の開発」
- (1)-8 「鉛フリーで低コストな亜鉛アルミ共析合金を用いたパワーデバイス用耐熱長寿命接合材料と接合プロセスの開発」
- (1)-9 「半導体復活のためにサプライチェーンを強化するブラシ型研削板による C M P パッド研削技術の研究開発」
- (1)-10 「導電率を倍（対：主流電気接点めっき）& 耐摩耗性も倍となる銀グラフェン複合めっき技術の研究開発」
- (1)-11 「柔らかく復元性に富んだ新複合材および成形技術開発による歩行障がい者の機能改善を促す下肢装具の実現」
- (1)-12 「繊維の強化能力を最大限に発揮させる工法により、アルミ合金以上の強度を実現する熱可塑性樹脂ねじの開発」

(2024 年度採択分)

- (1)-13 「生分解性プラスチックに使用される環境負荷が少なく高い生分解性をもつ紫外線吸収剤の開発」
- (1)-14 「空調の熱交換器のアルミ化に貢献する、銅管とアルミ管を革新的固相接合技術で接合した世界初の継手の開発」
- (1)-15 「学習データの偏在を防ぎ、データ構築からモデル化までを一気通貫で構築できる A I システムの研究開発」
- (1)-16 「世界初、有人環境で水と空気だけでウイルスを高速不活化するプラズママイクロミストモジュールの研究開発」
- (1)-17 「食品産業のロボット利活用を推進する多指人工筋肉ロボットハンドの開発」
- (1)-18 「早期発見された小型肺がんの切除範囲を決定するための A I 判定支援システムの研究開発」
- (1)-19 「リチウムイオン電池の安心・安全を担う非破壊検査装置向け X 線利用光導波型光子計数検出器の開発」
- (1)-20 「世界初のアンモニアを主燃料とする船舶用ボイラ向けバーナの開発」

4. 地球環境技術推進懇談会事業

地球環境技術推進懇談会のもとに、地球環境に関わる科学技術の研究開発と産業化を促進するため産学官等の連携による情報交流、調査研究、提言、共同研究、普及啓発等について活動を行い、自治体や産業界の環境活動を支援し、新たな環境ビジネスの創生につなげるべく展開した。

(1) 地球環境技術推進懇談会

(産業界 14 社、学界 10 名、官界 10 団体)

2024 年度の情報交流事業の地球環境技術推進懇談会本体活動と調査研究事業の個別研究会活動報告について審議し、了承された。

2025 年度の地球環境技術推進懇談会本体活動計画、個別研究会の「循環・代謝型社会システム研究会」、「水再生・バイオソリッド研究会」の継続と各個別研究会の年間テーマ・活動計画について審議し、了承された。

◇開催実績（総会 1 回・幹事会 2 回）

・第 33 回地球環境技術推進懇談会総会

日時：2025 年 3 月 4 日（火）14:20～16:45（オンライン・対面併用）

議題：2023 年度活動報告書（案）について

2024 年度活動計画書（案）について

特別講演：「カーボンニュートラル実現に向けた課題と展望」

東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 高村 ゆかり 氏

・2024 年度第 1 回幹事会

日時：2024 年 10 月 23 日（水）13:00～14:00（オンライン・対面併用）

議題：2024 年度活動状況報告(上期)

2025 年度地球環境技術推進懇談会活動（方向性）について

・2024 年度第 2 回幹事会

日時：2025 年 2 月 18 日（火）13:00～14:00（オンライン・対面併用）

議題：2024 年度活動報告書（案）について
2025 年度活動計画書（案）について

<活動内容>

【所管する研究会等の活動】

(1) 地球懇本体活動（講演会 4 回、見学会 3 回）

講演会は、総会 1 回と本体講演会 3 回の計 4 回の開催で、現在関心の高いテーマとして、カーボンニュートラル実現に向けたエネルギー・環境戦略、プラスチック資源循環、生分解性バイオマスプラスチック、再生可能エネルギーに関するテーマを取り上げ開催した。各分野の専門の講師の方より関心の高い講演をいただいたことやオンラインでも参加可能としたこともあり、各回とも参加人数が多く、非常に盛会であった。

見学会については、予定していた 3 回の開催をすべて実際に現地訪問する形で実施した。日本 CCS 調査（株）苫小牧 CCS 実証試験センターでは、隣接する出光興産（株）での水素製造に伴い発生する CO₂ の分離回収設備と海底への CO₂ 貯留設備、恵庭市下水終末処理場・焼却設備では、生ごみからの発電と資源リサイクル設備、北海道電力ネットワーク（株）南早来変電所では、風力と太陽光発電から得た再エネ電力を系統電力に入れるためのレドックスフロー蓄電池を見学した。

大崎クールジェン（株）では、最新鋭の CO₂ 分離回収型 IGCC 実証運転施設、隣接するカーボンリサイクル実証研究拠点では、分離回収した CO₂ を利用した Gas to Lipid バイオプロセスと微細藻類由来 SAF の製造に係る研究開発施設を見学した。

（株）ハイパーサイクルシステムズ本社工場では、エアコン、洗濯機、冷蔵庫の解体とリサイクル施設を見学した。参加メンバーからのアンケートは、いずれも好評で、非常に関心の高い見学会となった。

(2) 循環・代謝型社会システム研究会

2024 年度より 2 年間の計画で「循環型社会実現に向けた資源循環の強化と脱炭素化の推進」を活動テーマとし、2024 年度は 2 年計画の 1 年目として、調査研究を 4 回実施した。

本年度は、資源循環の強化、循環経済実現に向けた政策動向、バイオ素材利用による脱炭素化、次世代産業廃棄物処理、コンクリートによる CCUS、蓄電池のリサイクルについて話題提供をしていただいた。

見学会では、霧島酒造（株）焼酎の里 霧島ファクトリーガーデンを訪問し、焼酎製造工場（芋選別、芋蒸し、米麴づくり、仕込み、蒸留、貯蔵、ブレンド、瓶詰め）と焼酎粕リサイクル工場（メタン発酵によるバイオガス製造、発電、汚泥の堆肥化）についての調査研究を実施した。

(3) 水再生・バイオソリッド研究会

2023 年度から、「カーボンニュートラルと安全・安心を同時に実現するための下水道技術」を 2 年間のテーマとして取り組んでおり、2024 年度は、2 年計画の 2 年目として、調査研究を 4 回実施した。

本年度は、水の水質管理、下水の細菌ウイルス管理、水道の水質管理・環境基準、DX の活用、下水道の広域化の推進について、話題提供をしていただいた。

見学会では、公益財団法人 愛知水と緑の公社 矢作川浄化センターと豊橋市上下水道局 中島処理場およびバイオマス利活用センターを訪問し、前者では微生物による水浄化処理と三河湾への栄養塩供給、後者では下水汚泥、し尿、生ごみから、メタン発酵によりバイオガスを製造して発電している状況の調査研究を実施した。

5. 大阪科学賞

1983 年度に創設された本賞は、創造的科学技术の振興を図り、21 世紀における新たな発展と明日の人類社会に貢献することを目的とし、大阪を中心に科学技术の研究・開発に貢献された若手研究者（50 歳以下）に対し、毎年 2 件、本賞を授与する。また、表彰式・記念講演には次世代層（大学生・大学院生・高校生）にも呼びかけ、一人でも多くの若者たちが、これからの日本を代表する科学者や技術者を目指すための一助としている。

<活動内容>

運営は主催者三者（大阪府、大阪市、（一財）大阪科学技術センター）で構成する運営委員会で行い、選考委員の決定、受賞候補者の公募、受賞者の決定、表彰式・記念講演を行った。

・第 42 回 令和 6 年度（2024 年度）受賞者

藤井 俊博 氏（大阪公立大学大学院理学研究科 准教授）

業績： 極高エネルギー宇宙線の観測的研究

松崎 典弥 氏（大阪大学大学院工学研究科 教授）

業績： 組織工学における細胞統合技術の先駆的研究

・記者発表：9 月 30 日

・表彰式・記念講演：11 月 9 日

大阪大学の高大連携プログラム（大阪大学 SEEDS プログラム）とのコラボレーション等で、127 人（会場参加 106 人、オンライン参加 21 人）の中・高校生に参加いただき、的確かつ優れた質問が出されることで活発な質疑応答が行われた。

◇開催実績

- ・運営委員会（書面審議）：2 回（4/12、9/6）＊書面表決日
- ・選考委員会：2 回（5/17、8/27）
- ・幹事会：3 回（7/12、8/7、12/19）

6. 学協会の地域活動支援事業

(1) 日本ライセンス協会関西本部（日本ライセンス協会受託事業）

技術、特許、ノウハウ、商標、ソフトウェア、デジタルコンツなどを含む知的財産のライセンス、技術協力等全般に関与している企業のトップマネジメント、リーダー、実務者、弁護士、弁理士などから構成される日本ライセンス協会の関西本部活動を支援している。

会 長：橋本 千賀子（弁理士法人酒井国際特許事務所 商標部 部長）

構 成：会員総数 668 名（2025.3 末）

<活動内容>

月例研究会および研修委員会、教育委員会（ライセンス実務講座を含む）、年次大会など、国内外の各種会議・会合において、関西本部が関係する諸活動を実施した。

◇開催実績

- ・総会 1 回（2/19）、理事会 9 回（4/17、5/15、6/19、9/4、10/16、11/20、12/18、1/15、3/19）
- ・年次大会 1 回（7/12～13）朱鷺メッセ・ホテル日航新潟（212 名参加）
- ・関西月例研究会 10 回（4/16、6/4、6/28、9/2、10/28、12/16、1/16、1/28、2/5、3/27）

- ・ライセンス実務講座2コース（関西担当分）
 - 医薬・バイオ分野の知財ライセンス（6/10 大阪：6名）
 - 知財分野における英文ライセンス契約書の作成/チェック（7/22 大阪：6名）
- ・関西研修委員会3回（5/29、9/20、1/24）
- ・教育委員会2回（12/10、2/19）
- ・WG活動14回（関西本部担当分）
 - 1) アジア問題研究WG 3回（12/12、1/16、3/13）
 - 2) 企業法務・知財マネジメントWG 4回（4/22、5/27、9/18、12/3）
 - 3) 米国問題WG 3回（3/19、7/3、11/13）
 - 4) 判例研究WG 4回（6/7、9/30、12/17、3/31）

Ⅲ ニューマテリアルセンター事業

わが国産業界の国際競争力向上に資する観点から、国家施策に沿った事業として金属系新素材の評価試験方法の確立および標準化の促進とそれに関連する研究開発を推進してきた。

標準化に関しては、アジアと一体となった国際標準化に重点を置いてテーマの選定と提案に努めるとともに、金属系新素材標準化のナショナルセンターとしての社会的使命と責任を果たすべく活動を推進した。

標準化事業に関しては、2024 年度は経済産業省の委託事業である輸送機器用軽量化板材の二軸バルジ試験方法の ISO 制定に向けた活動を推進し 3 年の事業を完了した。タービンの遮熱コーティングの予防保全を実現する健全性試験方法の国際標準化については、新規テーマに採択され、3 年間にわたる事業を開始した。また、高性能永久磁石の高磁界での磁気特性測定方法に関しては、2014 年度からの取り組みの成果として IEC 国際規格が発行された。併せて過去 37 年間に制定に関与した JIS 98 件と ISO 43 件のメンテナンスを実施した。

研究開発事業に関しては、地域中小企業の技術開発支援のため、国の支援事業である成長型中小企業等研究開発支援事業（Go-Tech）を進めている。今年度は、WAAM 積層造形技術と品質評価技術の確立によるガスタービン燃焼器部品の試作開発を継続して推進すると共に、新規採択されたテーマである脱炭素社会実現に貢献する次世代バイオマス発電用ボイラーに用いる高耐食性被膜の開発を開始した。

<委員会活動>

1. 常設委員会

名 称 第 65 回ニューマテリアルセンター運営委員会

実施日 2024 年 5 月 24 日

場 所 大阪科学技術センター

議 題 1) 前回議事要旨の報告

2) 2023 年度事業報告(案)・収支計算(案)についての審議

3) 2024 年度事業計画(案)・収支予算(案)についての審議

<活動内容>

1. 標準化事業

(1) 輸送機器用軽量化板材の二軸バルジ試験方法の国際標準化（経済産業省委託事業／野村総研再委託）

本事業では、円管または板材から製作した円管試験片に、軸力と内圧を負荷・制御して任意の二軸応力状態で、降伏から破断までの応力－ひずみ曲線と成形限界を測定できる二軸バルジ試験方法を国際標準化する。そのために規格化に必要なデータを取得し、二軸バルジ試験方法の規格原案を提案する。さらに試験法を国内外に普及させるために、普及型二軸バルジ試験機を開発する。

本試験法により高精度成形シミュレーションが可能になり、プレス成形品の抜本的なコスト低減と納期短縮が実現し、軽量化板材の輸送機器への適用が拡大、促進される。

今年度は、3 年間の事業の最終年度にあたり、計画通り、国内外のキーパーソンと意見交換し、その結果を踏まえて提案用規格案を精査し、NP 提案して賛否投票を事業期間内に完了し、本事業の目標を達成した。

9 月につくばで開催された ISO/TC164（金属の機械試験）/SC2（延性試験）国際会議にて本試験方法の有用性を主要 P メンバー国にアピールするとともに日本提案への支持を要請し、規格化に対する理解を得た。10 月にはインド規格協会（デリー）を訪問し、本プロジェクトへの理解と協力を得た。国際標準化委員会での審議や国内外のキーパーソンとの意見交換により精査した提案用規格案を基に金属板材の二軸バルジ試験方法を ISO/TC164/SC2 へ NP 提案し、11 月 6 日～1 月 29 日の期間で賛否投票にかけ、予定通り賛否投票を終了した。投票の結果、投票した P メンバー 15 カ国のうち 14 カ国の賛成および 9 カ国のエキスパート参加を得て、NP として承認された。

また、実用化と普及の基盤の整備のために開発・改良した普及型二軸バルジ試験機の試験データにより応力やひずみの測定値の精度を保証するための試験条件を決定し、海外のキーパーソンの意見を踏まえ試験方法の内容の改善を行い数値シミュレーションによる確認を行い、本試験方法が実用性と測定精度を兼ね備えていることを実証した。

(2) タービンの遮熱コーティングの予防保全を実現する健全性試験方法の国際標準化

（経済産業省委託事業／野村総研再委託）

CO₂排出量比率が高い火力発電では発電効率の向上と省エネルギーを図るために、タービン燃焼ガス温度を上げることが要請されている。このためタービン翼を酸化・腐食から防護してメタル部を低温に保って強度を保持するための遮熱コーティング（TBC）は、タービン燃焼ガスの高温化を実現するためのキーテクノロジーであり、合理的特性試験方法の標準化が不可欠となっている。

今年度は、経産省の新規国際標準化テーマに採択され、3 年間にわたる事業を開始し、試験研究内容を検討する健全性評価委員会、試験研究を実施するワーキンググループ（WG）、国内のステークホルダーから構成する産学官連携委員会により、関係者との緊密な連携のもと事業を推進した。

1 年目の取組みとして、TBC の健全性を様々な観点から総合的に検討するために以下の複数の試験研究を実施してデータを収集した。

- 1) 非破壊による TBC の剝離検出に関する試験研究（超音波光探傷法及び赤外線法による測定）
- 2) TBC の剝離強度に関する試験研究（円環引張試験の実施）
- 3) TBC の材料劣化及び諸特性変化に関する試験研究（水蒸気酸化による熱伝導率・熱拡散率等の評価）

11 月に京都で開催された ISO/TC107 国際会議に出席し、P メンバー国のフィンランド、ポーランド、韓国、イギリスなどのキーパーソンらと交流を深め今後の NP 提案に向けて協力を依頼して理解を得た。また、12 月に東北大学（仙台）で開催されたアジア溶射会議 2024（ATSC2024）に参加し、TBC 国際標準化活動などを発表するとともに、TC107 の P メンバーである韓国のエキスパートや TC107 元議長らと親交を深め、引き続き協力が得られることを確認した。

PWI（予備業務項目）となっている ISO/ PWI20010：「X 線回折法による TBC の YSZ における単斜晶（m 相）の体積率決定方法」（前事業にて提案）について再度 NP 提案に向けた取り組みを行うこととした。

(3) 高磁界での磁気特性測定方法の国際標準化

高性能永久磁石の磁気測定法として「超電導磁石を用いる開磁路での磁気測定法」を開発し、2017 年からはその国際標準化を目指した活動を推進してきた。第一ステップとして、2019 年度に TR（Technical Report：技術報告書）を作成して IEC/TC68（磁性合金及び磁性鋼）へ提案し、2021 年 4 月に承認されて IEC/TR 63304 として発行された。

2022 年度からは自主事業として、最終目的の国際標準化を図るべく、TR を基に作成した IEC 規格原案を IEC/TC68 に NP（New Project：新規 PJ）として提案して承認された。今年度は CDV（Committee Draft for Vote：

投票用委員会原案)を作成して承認され、2月20日に次の規格番号およびタイトルでIEC規格として発行された。

IEC 60404-18 Magnetic materials – Part 18: Permanent magnet (magnetically hard) materials – Methods of measurement of the magnetic properties in an open magnetic circuit using a superconducting magnet (超電導磁石を用いる開磁路による永久磁石の磁気特性測定方法)

(4) JIS の制定

・遮熱コーティングの高温熱伝導率測定方法

本測定法に関しては、ISO/TC107(金属及び無機皮膜)において2021年にISO 24449を制定しており、これに整合する対応JISを制定するため、2023年10月から原案作成委員会を設置してJIS化を推進した。

本測定方法のJIS規格は今年度3月21日に次の規格番号およびタイトルで発行された。

JIS H 8456 遮熱コーティングの高温熱伝導率測定方法

2. 研究開発事業

(1) 成長型中小企業等研究開発支援事業 (Go-Tech: 近畿経済産業局補助事業)

NMC運営会員に関連する中堅・中小企業における事業化を支援するため、新たに1件の新規プロジェクトの事業管理を実施した。

(2023年度採択分)

(1-1) WAAM積層造形技術と品質評価技術の確立によるガスタービン燃焼器部品の試作開発

(2024年度採択分)

(1-2) 脱炭素社会実現に貢献する次世代バイオマス発電用ボイラーに用いる高耐食性被膜の開発

3. 材料技術振興基盤の整備事業

(1) 普及・広報活動

NMC事業活動を通じて得られた成果や最新の技術情報などについては、できるだけ迅速かつ的確に会員企業の技術者・研究者に提供するために下記事業を展開している。

(1-1) NMCニュースレターの発行

NMCの各種事業に関する活動状況と行事予定、新技術・新素材の開発動向に関する情報提供の媒体として、毎月発行して会員サービスの充実を図っている。

(1-2) NMC講演会の開催

ニューマテリアルセンター運営委員会の後、特別講演会として開催した。

演題: アルミからはじまる資源循環社会 – 富山の挑戦 –

講師: 柴柳 敏哉 先生 (富山大学 先進アルミニウム国際研究センター長 教授)

4. 学協会の地域活動支援事業

(1) 日本鉄鋼協会関西支部・日本金属学会関西支部の活動支援

日本鉄鋼協会・日本金属学会関西支部の講演会、見学会、材料セミナー等の運営を行うとともに関西で開催される国際会議やものづくり教育(学生工場見学)等を支援している。

IV 地域開発促進事業

地域開発委員会において、国及び地方自治体の地域開発計画や産業界ニーズに機動的に対応しながら、関西地域を中心とする地域開発・地域活性化の推進に取り組んだ。

大阪都市再生部会では、2019 年からの 6 年間にわたる調査研究における議論を統合し、また、2025 年万博のレガシーへの提言の位置づけとして、「ポスト万博の都市空間戦略～2040 年に向けた大阪・関西のまちづくり～」とする提言書を取りまとめ、2025 年 3 月に大阪市に手交した。

1. 地域開発委員会事業

地域開発委員会のもとに、関西地域の地域活性化を促進するため、産学官等の連携による情報交流、調査研究を実施した。

(1) 地域開発委員会（産業界 25 社、学・官界 18 名）

所管事業である大阪都市再生部会ならびに新規事業の検討を含む事業計画について審議した。

◇開催実績（委員会 1 回、幹事会 1 回）

- ・第 74 回地域開発委員会（オンライン・対面併用）

日時：2025 年 3 月 4 日（火）9:30～12:00

議題：2024 年度事業報告・提言書について
2025 年度事業計画について

講演：「防災デジタルツイン技術の利活用と社会実装に向けて」

理化学研究所 計算科学研究センター 総合防災・減災研究チーム チームリーダー／
神戸大学 都市安全研究センター教授
大石 哲氏

- ・地域開発委員会第 109 回幹事会

日時：2025 年 2 月 14 日（金）11:00～12:00（オンライン）

議題：2024 年度事業報告・2025 年度事業計画について
その他

<活動内容>

【所管する研究会等の活動】

(1) 大阪都市再生部会（産業界 12 社、学界 3 名、官界 4 名）

情報交流活動では、フォーラム・先進事例調査を通じ、都市の再活性化、新産業の創出等に関し、先進的事例や新たな社会動向を把握するため、情報収集を行った。

調査研究活動では、民間の立場から 2040 年頃の「大阪・関西のありたい姿」を「都市空間」にフォーカスして検討し、都市ビジョンとしてとりまとめることを目的とした。過年度の検討では「2040 年に実現したい都市空間像」を「関西圏」、「大阪」、「地区・街区」の 3 つのレイヤーでとらえることとした。

2020～2021 年度は「関西圏」から見た視点でありたい姿を取りまとめ、2022 年度は、「大阪」、「地区・街区」の視点でありたい姿を検討し、2023 年度は、ポテンシャルがありながらも、拠点を中心としたまちづくりが活発に展開されている状況ではないインナーバイエリアに着目し、ありたい姿を検討することとした。2024 年度は、これまでの検討を統合し、また、2025 年万博のレガシーへの提言と位置づけ、提言書「ポスト万博の都市空間戦略～2040 年に向けた大阪・関西のまちづくり～」を取りまとめた。

- ・部会 1 回、フォーラム 2 回、先進事例調査 2 回、調査研究会 4 回

V. ビル利用促進事業

2024年度の貸会場事業においては、顧客ニーズに寄り添った最新の映像・音響機器の整備を実施した。また、新規利用先の開拓としてDM発送や案内メールの配信等の広報活動を継続的に実施した。しかし、従前の集合式会議からオンライン式会議への定着化の影響もあり、収益増進には繋がらなかった。そのため、ホームページの見直し、デジタルサイネージ新設による案内サービスの強化を検討するとともに、収益増進のため料金改定を検討した。

ビル改修工事においては、原材料の品薄や資材価格が高騰する中、2021年度から開始した改修工事計画に基づき、機器全体及び老朽化機器の部分更新工事を着実に実施した。さらに、廃棄物の減量および分別収集などの資源リサイクルなど環境に配慮した取組みも引き続き積極的に推進した。

<活動内容>

1. 長期視点に立ったビル資産の有効な運用

(1) テナント事業

① 新規テナントの誘致に向けての情報収集（大阪府内の各団体・学会の調査他）

- ・賃貸物件の空室発生時に備え、新規テナント発掘やビルの収益向上と採算性を踏まえた検討を行った。

② テナント事業及び貸会場事業のシナジー効果による収入の安定化

- ・既存テナントとコミュニケーションを適宜図り、ビル建物の継続利用に向け付加価値の向上に努めた。
- ・稼働率の低い貸会議室からテナント室への用途変更の可能性について検討を行った。
- ・会場利用団体のテナント誘致の情報収集を継続的に行った。

(2) 貸会場事業

貸会場事業においては、顧客ニーズに寄り添った最新の映像・音響機器の整備を実施した。また、新規利用先の開拓としてDM発送や案内メールの配信等の広報活動を継続的に実施した。しかし、従前の集合式会議からオンライン式会議への定着化の影響もあり、収益増進には繋がらなかった。そのため、ホームページの見直し、デジタルサイネージ新設による案内サービスの強化を検討するとともに、収益増進のため料金改定を検討した。（2025年4月1日申し込み分より新料金を適用）

① 貸会場の利用促進

社会環境の変化、顧客ニーズの多様化に機敏に対応し、満足度の高いサービスを提供した。

1) 新規利用先の開拓

- ・貸会場DMの発送・・・団体・学会や新規顧客を中心に封書案内

2) 広報・営業活動

- ・貸会議室広告・検索サイトでの広報・・・「会議室.com」に継続掲載
- ・重点営業活動による主要顧客の繋ぎ止め・・・主要顧客を中心に訪問活動の実施
- ・リピーターの獲得広報・・・リピーターへの電子メール広報（毎月月末に約500通を配信）
- ・近隣企業への広報（毎月、近隣ビルへ案内パンフレットを配布）

3) 会場利用促進に関する企画の検討

- ・安定的に会場利用実績のある医療系顧客（健診会場利用）への付加スペースの貸出サービス提供を引き続き行った。

③ 貸会場の整備

1) 会場備品の継続整備

- ・各種ウイルス感染対策備品（除菌アルコール等）補充・・・・・・（随時）
- ・ワイヤレスマイク補充・・・・・・（9月13日）
- ・ポータブルデジタルワイヤレスアンプ&マイク補充・・・・・・（10月10日）
- ・有線マイク補充・・・・・・（10月16日）
- ・プロジェクター&P C接続用HDMI ケーブル補充・・・・・・（11月25日）
- ・液晶プロジェクター3台補充・・・・・・（2月26日）

2) 各会場の老朽部分の整備（随時実施）

- ・4階401号室補助モニター2台更新工事・・・・・・（4月26日）
- ・7階701号室音響設備更新工事・・・・・・（10月7日）
- ・8階中ホール音響設備アンプ不具合修繕・・・・・・（10月15日）
- ・8階中ホール補助モニター不具合修繕・・・・・・（11月27日）
- ・1階玄関デジタルサイネージ案内板新設工事『本日の会合ご案内等』・・・・・・（3月5日～3月28日）

③ 貸会場利用件数（4月～3月）

室名	401	402	403	404	405	大ホール	中ホール	小ホール	B101	B102
件数	208	154	169	186	112	102	184	144	182	148

室名	600	601	602	603	605	700	701	702	703	合計
件数	168	183	154	116	161	144	162	103	106	2,886件

※2023年度実績 合計 3,031件

2. 安全で快適なビル環境の提供

(1) ビル主要部分改修工事の実施と計画

(ア) 主要部分改修工事

1) 2024年度工事

- ・受変電機器他部分更新（第4期）工事の実施
高圧負荷開閉器、断路器、避雷器、他関連機器等取替・・・・（11月23日）
- ・汚水・雑排水ポンプ更新（第1期）工事の実施
地下2階北側雑排水ポンプ更新・・・・（7月8日～7月12日）
地下2階北側汚水ポンプ更新・・・・（8月10日～8月15日）

2) 次年度以降の工事

- ・受変電機器他部分更新計画・・・・第5期工事準備
- ・汚水・雑排水ポンプ更新計画・・・・第2期工事準備

(イ) その他工事 随時老朽部分の整備

- ・6階女子洋式トイレウォシュレット故障取替・・・・（4月26日）

- ・4階男子洋式トイレフラッシュバルブ故障取替・・・(4月26日)
- ・空調設備天井カセット形エアコン用ドレンポンプ分解洗浄点検作業・・・(4月27日～4月29日)
- ・7階レストラン入口建具錠前故障部品取替・・・(6月14日)
- ・空調機自動制御装置設置工事・・・(6月25日、7月1日、7月2日)
- ・8階大ホール系統空調ダクトリーク調査・・・(6月27日)
- ・地下2階非常用蓄電池触媒栓52個取替工事・・・(7月25日)
- ・地下2階清掃室スプリンクラー漏水部品取替・・・(8月10日)
- ・2階女子洋式トイレ身障者用ウォシュレット故障取替・・・(8月22日)
- ・空調ドレンポンプ不具合点検及び部品取替(608号室・404号室)・・・(8月5日)
- ・空調ドレンポンプ不具合点検及び部品取替(302号室)・・・(8月28日)
- ・別館北側フェンス破損部取替工事・・・(9月19日)
- ・エレベーターNo.2号機主ロープ取替工事・・・(9月21日)
- ・空調ドレンポンプ不具合点検及び部品取替(305号室)・・・(9月23日)
- ・消防設備不良箇所改善工事(自動火災報知設備感知器取替)・・・(10月4日～10月6日)
- ・消防設備不良箇所改善工事(火災報知器・消火栓表示灯取替)・・・(10月26日)
- ・消防設備不良箇所改善工事(消火器具更新、消防ホース取替)・・・(12月18日、12月19日)
- ・消防設備不良箇所改善工事(8階避難器具増設<小ホール救助袋新設>)・・・(12月19日)
- ・空調ドレンポンプ不具合点検及び部品取替(605号室・606号室)・・・(1月6日)
- ・7階レストラン厨房内給水栓不具合部品取替・・・(1月10日)
- ・空調ドレンポンプ不具合点検及び部品取替(404号室)・・・(2月26日)
- ・消防設備不良箇所改善工事(2階西避難口誘導灯故障取替)・・・(2月21日)
- ・消防設備不良箇所改善工事(9階屋上避難経路表示等故障取替)・・・(2月25日)
- ・6階女子トイレ照明スイッチ故障部品取替・・・(3月10日)
- ・7階女子洋式トイレウォシュレット故障取替・・・(3月13日)

(2) 管理・維持保全

(ウ) ビル内主要設備点検整備

- ・ビル設備点検(設備巡回点検、電気設備他)・・・(毎月1回実施)
- ・空気環境測定・・・・・・・・・・・・・・・・・・(隔月1回実施)
- ・防災避難誘導放送訓練・・・・・・・・・・・・(毎月2回)
- ・害虫調査駆除作業・・・・・・・・・・・・・・(全館一斉駆除4月29日、10月6日、他部分駆除毎月2回)
- ・消防設備点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・(4月5日～4月7日、10月4日～10月6日)
- ・放送設備点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・(4月7日、10月6日)
- ・自動扉点検作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・(5月20日、8月21日、11月6日、2月4日)
- ・昇降機設備点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・(毎月実施、法定点検5月8日、8月7日)
- ・電話交換設備点検・・・・・・・・・・・・・・・・(6月12日、9月19日、12月26日、3月25日)
- ・空調設備点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・(6月25日、7月7日、9月25日、12月25日、1月19日、3月25日)
- ・蓄電池設備点検作業・・・・・・・・・・・・・・(4月23日)
- ・給排水設備点検整備・・・・・・・・・・・・・・(上水道設備 7月10日～7月19日、下水道設備 10月5日)
- ・受変電設備精密点検・・・・・・・・・・・・・・(11月23日)
- ・ビル窓清掃作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・(4月8日、7月29日、10月28日、1月27日)

(3) 検査・届出

- ・廃棄物の減量推進および適正処理に関する計画・報告（4月30日）
- ・飲料水水質検査・・・・・・・・・・・・・・・・（7月22日, 1月30日）
- ・簡易専用水道検査・・・・・・・・・・・・・・（7月31日）
- ・防火対象物点検・報告・・・・・・・・・・・・（9月9日～9月20日点検、9月30日報告）
- ・特定建築物（防火設備）定期検査・報告・・・・・・（10月4日～10月6日検査、12月25日報告）

(4) ビル共同防火管理協議会の運営

- ・ビル共同防火管理協議会開催・・・・・・・・（4月24日）
- ・防災総合避難訓練の実施・・・・・・・・・・・・（11月18日）

VI 総合企画活動

総合企画活動においては、科学技術の振興と関西産業発展に資するべく科学・産業振興に関する情報発信ならびに公益性の高い事業の実施状況等についての情報発信を強化し、財団の公益的活動に関する理解促進を図った。

賛助会員に対しては、ホームページおよびメールマガジンによる情報発信、講演会・見学会の開催、会員同士の交流の場の提供を行うとともに、当財団へのニーズも含めたアンケート調査を行い、各種事業活動に反映することとした。また、顕彰の推薦団体として科学技術分野の表彰制度への候補者推薦等を行った。

関係諸団体との連携においては、各団体の知見を当財団の取組に反映すべく、定期的な情報交換の場を設けた。大阪大学大学院工学研究科（人材育成ならびに教育における包括連携協定を提携）との今後の活動を充実させるため、社会実装を目指す大学の若手研究者と研究シーズを求める企業の技術者が共創を目指す場の創出に向けた検討を実施し、トライアルイベントを開催した。

<活動内容>

1. 科学技術振興の基盤づくり

科学技術の振興と関西産業発展のための基盤づくりに向けて、次の諸事業を実施。

(1) 広報活動

ウェブサイト、機関誌等による当財団事業の活動・成果などの広報活動および関西地域における科学技術に関する情報発信など科学技術情報等のプラットフォームづくりを行うとともに、報道機関との連携を図り、積極的な情報発信を行った。

① 記者発表（1件）

- 1) 第42回（2024年度）大阪科学賞受賞者決定の発表について（9/30）

② プレス・リリース（9件）

- 1) 大阪科学技術館 4月イベント開催告知のご検討のお願い（4/10）
- 2) 2025年大阪・関西万博に向けた電気事業連合会と（一財）大阪科学技術センターとの包括連携協定の締結について（4/23）
- 3) 第42回（2024年度）大阪科学賞 受賞候補者の募集について（5/20）
- 4) 大阪科学技術館 夏休みイベント開催告知のご検討のお願い（7/2）
- 5) 第24回LSSサイエンスカフェ（10/19）開催告知記事掲載のご検討のお願い（9/24）
- 6) 大阪科学技術館 冬イベント（12/8～1/13）開催告知のご検討のお願い（11/29）
- 7) 第42回（2024年度）大阪科学賞受賞者決定の発表について（9/26）
- 8) 大阪科学技術館 春イベント開催告知のご検討のお願い（3/6）
- 9) 万博レガシーのまちづくりの提言書『ポスト万博の都市空間戦略』を公表しました（3/27）

(2) 情報提供活動

① 会員懇談会の開催

賛助会員および委員会・研究会等の関係者を対象に、ご支援をいただいていることによって成し得た事業についての報告・説明の場および会員相互の連携の場として、会員懇談会を開催した。

第1回会員懇談会(8/5) 「大阪科学技術センターの事業実施状況について」

② OSTE C講演会および見学会の開催（講演会2回、見学会1回）

科学技術動向をはじめ地域の産業技術など関心の高いテーマを取り上げた講演会・見学会を、賛助会員等を対象開催した。

(1) 第157回OSTEC見学会(5/21) 「車両の安全・安心を支える」

関電L&A大阪自動車整備工場

(2) 第158回OSTEC講演会(6/12) 「2025年から始まる未来」

大阪公立大学研究推進機構教授 橋爪 紳也 氏

(3) 第159回OSTEC講演会(8/5) 「気候変動で変わりゆく雨」

一般財団法人電力中央研究所 サステナブルシステム研究本部 上席研究員 大庭 雅道 氏

③ 機関誌「the OSTE C」の発行（季刊 年4回発行：4/5, 7/5, 10/5, 1/5）

OSTEC が取り組んでいる事業内容を中心として、科学・産業技術に関する施策や動向、産学官における先端研究などを総合的に掲載した機関誌「the OSTE C」を四季報として発行。最近の成果や取材記事を集めた特集コーナーとして掲載するとともに、OSTEC の事業紹介等を積極的に掲載した。

(3) 関係機関との連携

当センター事業の活動を深めていくために、全国の科学技術振興機関等との情報交流など連携を強化し、地域技術振興等に関する意見交換を実施した。

①全国地域技術センター連絡協議会（事務連絡会2回、総会(書面)2回）

・経済産業省講演

講演タイトル「地方創生に向けた経済産業省の取組について」

経済産業省 経済産業政策局 地域経済産業政策課 課長補佐 小西 良太郎 氏

・各地域団体の最新取り組みの情報交換、各課題に対する意見交換

②三財団連絡会議（1回開催）

(4) 新年交歓会の開催

関係機関との連携強化および関係機関相互の連携の場として、新年交歓会を開催した。

・日 時：2025年1月5日(火) 15:30～17:00 *大阪国際サイエンスクラブ共催

・参加者：312名

2. 賛助会員対応活動

(1) 新規会員の勧誘および既存会員への対応

事業への参画企業等に広く賛助会員への入会を勧誘した。あわせて会員には懇談会・講演会の実施ならびに機関誌の送付などの会員対応の活動を行った。

11月に賛助会員を対象としたアンケートを実施、頂いたご意見に対して各種事業活動への反映を検討し、活動内容の充実に努めた。

(2) 会員の事業への参画推進

1. (2) 情報提供活動に加え各種事業活動における公開シンポジウム等の情報提供を行い、多くの会員に参加いただいた。

(3) 叙勲、国家褒章、文部科学大臣表彰などの顕彰候補者の推薦

① 叙勲

- | | |
|----------------------|------------|
| 1) 2024 年度叙勲件数 | 0 件 (推薦なし) |
| 2) 2025 年度叙勲候補者の推薦件数 | 0 件 |

② 国家褒章

- | | |
|----------------------|------------|
| 1) 2024 年度受章件数 | 0 件 (推薦なし) |
| 2) 2025 年度受章候補者の推薦件数 | 0 件 |

③ 文部科学大臣表彰

- | | |
|------------------------|-----|
| 1) 2024 年度大臣表彰受賞件数 | 0 件 |
| 2) 2025 年度大臣表彰候補者の推薦件数 | 0 件 |

④ 大阪府技術開発関係表彰

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1) 2024 年度大阪府表彰受賞件数 | 1 件 (2023 年度推薦 1 件) |
| 2) 2025 年度大阪府表彰候補者の推薦件数 | 1 件 |

(4) メールによる情報発信 (配信回数 212 件)

当センター事業活動ならびに関連団体イベント情報等を OSTECH 通信 (メールマガジン) により適宜会員に配信した。

3. 経営企画

経営基盤の強化、組織機能の拡充をめざして、ニーズに基づく新規取組み等の事業の拡大、既存事業の見直し、活性化による収支改善に中期的な視野で取り組むとともに、業務効率化などに取り組んだ。

(1) 2030 年のありたい姿「価値共創のパートナー」の実現に向けた事業の推進 (大阪大学大学院工学 研究科との人材育成ならびに教育における連携の取組み)

2020 年 3 月 31 日に締結した大阪大学大学院工学研究科と人材育成ならびに教育における連携協力協定に基づき、今年度は社会課題解決に向けた企業と大学との活動を推進するため、社会実装を目指す大学の若手研究者と、研究シーズを求める企業の技術者が共創を目指す取り組みを 2 回実施した。

① 「世界を変える最先端テクノロジーセミナー2024 ～社会実装の共創パートナー探索～」

日時：2024 年 9 月 17 日

場祖：大阪大学センテラスサロン

参加者：21 名

② 「大阪大学大学院工学研究科テクノアリーナ IoT プラットフォーム工学フォーラム 2025」

日時：2025 年 3 月 5 日

場所：大阪科学技術センター中ホール

参加者：49 名

(2) 2024 年度事業計画

2023 年度事業計画における取組みを評価し、2024 年度事業計画を策定した。

総務事項

1. 会員の状況

賛助会員の状況 (2025 年 3 月末)

会 員 総 数	307 社
入 復 会 会 員	9 社
休 退 会 会 員	19 社

2. 役員等に関する事項

今年度における役員等の異動は、次のとおりである。

(評議員)

年月日	就 任	退 任
2024 年 5 月 28 日	武内 郁夫	村田 俊彦
2024 年 6 月 14 日	藤田 静雄	松波 弘之
2024 年 6 月 14 日	桑畑 進	豊田 政男

(理事)

年月日	就 任	退 任
2024 年 6 月 14 日	-	岡崎 陽
2024 年 6 月 14 日	川崎 真一	田畑 健
2024 年 6 月 14 日	田坂 秀樹	-
2024 年 6 月 14 日	片桐 昌直	有賀 正裕
2024 年 6 月 14 日	奎野 由明	栗山 信宏

3. 職員に関する事項

職員は 1 名増であり、年度末においては、48 名である。

4. 役員会等に関する事項

(1) 評議員会

①第 44 回評議員会（決議の省略による）（2024 年 5 月 28 日みなし決議）

（決議事項）

・「評議員の選任」の件

②第 45 回評議員会（2024 年 6 月 14 日開催）（オンライン・対面併用開催）

（決議事項）

・「2023 年度貸借対照表、正味財産増減計算書等」の件

・「評議員の選任」の件

・「理事の選任」の件

・「監事の選任」の件

（報告事項）

・「2023 年度事業報告」の件

・「2023 年度公益目的支出計画実施報告書」の件

・「2023 年度決算におけるビル改装準備資産の積立額」の件

- ③第 46 回評議員会（2025 年 3 月 21 日開催）（オンライン・対面併用開催）
（決議事項）
- ・「2025 年度事業計画書・収支予算書(案)」の件
 - ・「評議員の選任」の件

(2) 理事会

- ①第 60 回理事会（決議の省略による）（2024 年 4 月 7 日みなし決議）
（決議事項）
- ・「評議員の選任を評議員会の決議の省略により執り行う」件

- ②第 61 回理事会（2024 年 5 月 29 日開催）（オンライン・対面併用開催）
（決議事項）
- ・「2023 年度事業報告」の件
 - ・「2023 年度決算におけるビル改装準備資産の積立額」の件
 - ・「2023 年度貸借対照表、正味財産増減計算書等」の件
 - ・「2023 年度公益目的支出計画実施報告書」の件
 - ・「顧問の委嘱」の件
 - ・「評議員会の招集」の件

（報告事項）

- ・「職務執行状況の報告」の件

- ③第 62 回理事会（2024 年 6 月 14 日開催）

（決議事項）

- ・「会長、専務理事、常務理事、その他業務執行理事の選定」の件
- ・「理事の職務権限・分担に関する規則の改定」の件
- ・「常勤理事の報酬支給額」の件

- ④第 63 回理事会（2025 年 3 月 11 日開催）（オンライン・対面併用開催）

（決議事項）

- ・「2025 年度事業計画書・収支予算書（案）」の件
- ・「役員賠償責任保険」の件
- ・「評議員会の招集」の件

（報告事項）

- ・「職務執行状況の報告」の件

(3) 総務委員会

- ①第 37 回総務委員会（2024 年 5 月 24 日開催）（オンライン・対面併用開催）
（議題）

- ・2023 年度事業報告ならびに決算書（案）について
- ・その他

- ②第 38 回総務委員会（2025 年 2 月 28 日開催）（オンライン・対面併用開催）

（議題）

- ・2025 年度 事業計画書・収支予算書(案)について
- ・その他

(附属明細書)

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書については、
「事業報告の内容を補足する重要な事項」として報告対象のものはない。

以 上